

平成20年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業

オーストラリア研修 報告書



平成21年1月4日(日)～1月12日(月)

ご日程表

株式会社 JTB東北

横手支店

TEL : 0182-33-4933

FAX : 0182-33-5899

担当者: 加藤 謙優

作成日 2008年12月19日

大仙市立中学校生徒海外派遣 様

日程: 平成21年1月4日(日) ~ 平成21年1月12日(月)

参加人員: 生徒19名様+引率1名様+添乗員1名同行

日次	月日(曜)	都市	現地時間	交通手段	スケジュール【宿泊先】	朝食	昼食	夕食
1	H21年 1/04 (日)	大曲市役所発 仙台空港着 仙台空港発 グアム空港着 グアム空港発	07:00 10:30 12:15 17:00 19:55	専用車 航空機 航空機	大曲市役所集合: 6時30分 専用車にて仙台空港へ チェックイン 出国手続後、C0932便にてグアムへ(所要3:45) 出発時間まで空港内にてフリータイム。 C0902便にてケアンズへ(所要4:40)	×	機内	機内
2	1/05 (月)	ケアンズ空港着 ケアンズ空港発 マンガリフォルス	00:35 01:30 03:00 13:00 17:00 18:30 19:30	専用車	入国手続後、マンガリーへ移動。 着後、睡眠・休憩。 現地スタッフと一緒に環境学習体験。熱帯雨林散策 や川泳ぎなどを楽しく体験致します。 オーストラリアだけに棲息する『カモノハシ』探索 ウォーターフォールカフェにてご夕食 土ポタルと星空鑑賞へGO!! 【レインフォレストロッジ泊】	ロッジ	ハンバーガー	スパゲティ
3	1/06 (火)	マンガリフォルス	08:30 10:00 10:30	ホストファミリー	ウォーターフォールカフェにてご朝食 オリエンテーション後、ホストファミリー面会 ファームステイ先へ移動 いよいよオーストラリアの生の暮らし体験 【ファームステイ】	ロッジ	ステイ先	ステイ先
4	1/07 (水)	マンガリフォルス	終日		ホストファミリーと過ごす1日 ファームの仕事と一緒に手伝い、家族と共に過ごしていただきます 【ファームステイ】	ステイ先	ステイ先	ステイ先
5	1/08 (木)	マンガリフォルス	終日		ホストファミリーと過ごす1日 ファームの仕事と一緒に手伝い、家族と共に過ごしていただきます 【ファームステイ】	ステイ先	ステイ先	ステイ先
6	1/09 (金)	マンガリフォルス	09:00 10:00	ホストファミリー	各ファームステイ先よりマンガリーに集合 終日: 現地学生との交流 アーチェリー・ランドスライド・チームラフトビルド・障害物競争・キャンプファイヤーなど 【レインフォレストロッジ泊】	ステイ先	ピザ	BBQ
7	1/10 (土)	ケアンズ	06:30 07:45 08:30	専用車	ウォーターフォールカフェにてご朝食 マンガリーフォールズを出発 エクスカッション ~グリーン島~ さんごの島にて海水浴やマリンスポーツを体験。 【コロンIAL・クラブ・リゾート泊】	ロッジ	カフェ	ホテル
8	1/11 (日)	ホテル発 ケアンズ空港着	09:00 22:00	専用車	エクスカッション ~キュランダ渓谷~ 渓谷を走るキュランダ鉄道や水陸両用車に乗り、ケアンズの自然を体感致します。 チェックイン 【機中泊】	ホテル	カフェ	レストラン
9	1/12 (月)	ケアンズ空港発 グアム空港着 グアム空港発 仙台空港着 仙台空港発 大仙市役所着	01:35 06:05 08:00 11:00 12:30 16:00	航空機 航空機 航空機 専用車	出国手続後、C0903便にてグアムへ(所要4:30) 出発時間まで空港内にてフリータイム。 C0931便にて仙台へ(所要4:00) 空港内にて昼食(各自) 入国手続後、貸切バスにて秋田へ 無事到着、お疲れ様でした。	機内	×	×

平成20年度大仙市立中学校生徒海外派遣事業参加生徒

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別
1	大 曲	2	いとうりさ 伊藤理紗	女	11	協 和	2	さとうゆりこ 佐藤由里子	女
2	大 曲	2	かさいこうた 葛西宏太	男	12	協 和	2	さわぐちかな 沢口佳那	女
3	大 曲	2	かわむらまい 川村麻衣	女	13	協 和	2	すずきしえり 鈴木志恵里	女
4	大 曲	2	こにしかなこ 小西可南子	女	14	中 仙	2	くまざわよしひろ 熊澤嘉宏	男
5	大 曲	2	ささきゆう 佐々木裕	男	15	太 田	2	すずきちえみ 鈴木千絵美	女
6	大 曲	2	ふじもとようこ 藤本洋子	女	16	太 田	2	てつやたかのぶ 鉄谷貴信	男
7	大 曲	1	たけだまゆこ 武田万由子	女	17	仙 北	2	おおやましおり 大山 栞	女
8	大 曲	1	ふじごえねお 藤肥寧緒	女	18	仙 北	2	はらえりか 原 絵里香	女
9	平 和	2	すずきさあや 鈴木沙彩	女	19	仙 北	2	やまだひめ 山田 姫	女
10	協 和	2	あまのひめこ 天野媛子	女					



事前学習会

11月12日(水) 第1回学習会 PM 4:00~5:30	視聴覚室
・オーストラリアの文化、風土についての紹介 (CIR) pptによる説明・オーストラリアクイズ	
・自主研究テーマの決定 (高規) pptによる説明	
11月28日(金) 第2回学習会 PM 4:00~5:30	第3委員会室
・出入国カードの記入について	
・英会話レッスン 自己紹介・飛行機の中で・税関にて・ショッピングしよう・ホテルにて (CIR・ALT)	
・自主研究テーマの確認 (高規)	
12月26日(金) 第3回学習会(結団式) AM 9:30~11:30	
・ホームステイグループごとの日本文化紹介準備活動	
・作成レポートについて	
・報告会について	
	視聴覚室

結団式 派遣生徒代表誓いのことば (大曲中 小西可南子 太田中 鈴木千絵美)

私にとって「オーストラリア」は、青い海や熱帯雨林、コアラやカンガルー、カモノハシなどのイメージがある、以前から行ってみたい国の一つでした。

応募のきっかけは、父や伯母が仕事や旅行で行った海外の話を聞きあこがれがあったからです。特に、現地の人との交流や楽しいエピソードを聞き、私も自分の目で見て、自分の手で触れて様々な体験をしてきたいと思いました。

日本と違う文化や歴史、スケールの大きい自然を、体験を通して満喫してきたいと思います。そして、オーストラリアで出会う多くの人々との交流を大切に、活動を共にする19人の仲間とも協力し合い、沢山の思い出を作りたいです。

けれど、楽しみな反面コミュニケーションがとれるか言葉の不安もあります。でも、「笑顔と心で接すれば伝わる」をモットーにチャレンジしたいです。

最後に、参加するにあたりチャンスを与えてくれた大仙市と家族に感謝して、オーストラリアでの9日間を元気に、また体験や活動を楽しみながら過ごしてきたいと思います。



(大曲中 小西可南子)

いよいよ出発の 때가近づき、どきどきしています。

私は以前から海外派遣に行きたいと思っていました。行けることが決まった時には、英語で話せるかという不安もありましたが、オーストラリアに行けることがとにかく嬉しくて嬉しくて、大喜びしました。

私は将来、海外で働ける仕事、英語を話す仕事に就きたいと考えています。そのために、今から英語を使って人と話すことを体験して、その感覚をつかみたいと思っています。また、日本以外の文化に触れてみたい、生のオーストラリアの文化に触れてみたいと思います。さらに今回の旅のテーマは「今ある自然を残していくためにはどうすべきか」なので、たくさんものを自分の目で見て、手で触れて体験してきたいです。

一方で、たくさん友達も作ってきたいと思っています。日本の中だけでなく、海外の人とも話したり気持ちを通わせることができれば、とても楽しいだろうと思っています。せっかくいただいたこのチャンスを将来につなげられるように過ごしてきたいです。



(太田中 鈴木千絵美)



事前学習会





結団式

説明会



オーギーキッズと

平成20年度海外派遣生自主研究テーマ一覧

No.	中学校名	学年	生徒氏名	性別	自主研究テーマ
1	大 曲	2	伊藤理紗	女	・オーストラリアの自然や環境を保護するためにどんな活動や工夫をしているのか。
2	大 曲	2	葛西宏太	男	・日本人の食生活をどうするべきか。
3	大 曲	2	川村麻衣	女	・家庭での役割はどうあるべきか。
4	大 曲	2	小西可南子	女	・水を大切に使うためにはどうするべきか。
5	大 曲	2	佐々木裕	男	・大仙市のエコ活動はどうあるべきか？
6	大 曲	2	藤本洋子	女	・日常生活の過ごし方はどうあるべきか。
7	大 曲	1	武田万由子	女	・安全で健康な食生活を送るにはどうすれば良いのか。
8	大 曲	1	藤肥寧緒	女	・オーストラリアの自然と生活を体験して。
9	平 和	2	鈴木沙彩	女	・みんながもっと人と交流するにはどうあるべきか？
10	協 和	2	天野媛子	女	・オーストラリアの大自然について。
11	協 和	2	佐藤由里子	女	・オーストラリアの自然と資源の使い方について。
12	協 和	2	沢口佳那	女	・オーストラリアの生活と自然について。
13	協 和	2	鈴木志恵里	女	・オーストラリアの自然について。
14	中 仙	2	熊澤嘉宏	男	・我々の食生活をよりよいものにするためには何をすべきか？
15	太 田	2	鈴木千絵美	女	・今ある自然を残していくにはどうするべきか？
16	太 田	2	鉄谷貴信	男	・休日の過ごし方はどうあるべきか？
17	仙 北	2	大山 葉	女	・お互いに気持ちの良い生活をするためにはどうするべきか？
18	仙 北	2	原絵里香	女	・コミュニケーションを大切にした、安心できる暮らしのためにはどうするべきか？
19	仙 北	2	山田 姫	女	・家族の一員として私たちはどうあるべきか。 ・よりよい学校生活をおくるにはどうするべきか。

オーストラリアの自然・環境保護活動について

No. 1 大曲中学校 伊藤 理紗

I はじめに

私は、以前から英語に興味があり、実際に英語が使われている国に行ってみたいと思っていました。だから、この海外派遣のことを知ったときには、ぜひ参加したいと強く思いました。日本と他の国を比べてみたい、日本のよさって何だろう、日本にはない海外の文化にはどんなものがあるだろう。楽しいことで頭の中がいっぱいになり、出発の日を心待ちにしていました。

II テーマ設定の理由

オーストラリアというと、コアラやカンガルーなどの動物や、珍しい植物などの自然が思い浮かびます。こうした自然を守るために、何か活動や工夫をしているのか、また、そのような活動の中に、日本でも自然を守るためにできることのヒントがあるのではないかと思ったので、このテーマを設定しました。

III 調べた内容

オーストラリアの自然や環境を保護するためにどんな活動や工夫をしているのか、「ゴミ」と「移動手段」、「動植物の保護」の3つの視点から調べてみました。

1. ゴミについて

(1) ゴミの分別

私が、ファームステイした先では、いろいろな物が混ざったまま捨てられていました。日本のように細かい分別はせずに、これだけは混ぜてはいけないというものを除いて、ゴミを出しているのではないかと思いました。

大きく「一般ゴミ」と「リサイクルゴミ」に分けられているようでした。

(2) ゴミ箱の設置

オーストラリアでは、街や観光地に多くのゴミ箱が設置されていました。1つのゴミ箱があるところから数メートル歩くとまたゴミ箱があるという感じで、近くにいくつものゴミ箱があるのです。だから、人通りが多い街中でも、ゴミが落ちていることはほとんどなく、とてもきれいでした。日本だったら、道路にゴミが落ちていることが多く、特に人通りの多いところでは、ゴミが目立ちます。日本でも、オーストラリアのように、ゴミ箱を多く設置するなどの工夫をすれば、道路に捨てられるゴミの量を減らすことができるのではないのでしょうか。



キュランダ鉄道から
見たゴミ箱

2. 移動手段

オーストラリアでも、日本と同じように、移動するときは車を使うことが多いようです。しかし、運転をするときの速度は日本よりも速かったです。

ホストファミリーの運転では、いつも時速 60 キロ～80 キロ位で走っていました。さらに、前の車を追い越すときには、100 キロ以上出ていたのです。普通の道路で 100 キロも出すなんて、日本では考えられません。道路標識に、「100」と書かれたものもあり、日本との違いにとっても驚きました。ステイ中の最高速度は、140 キロくらいで

した。

日本では、ハイブリットカーや燃費のよい車などの開発も進んでいます。また、ふだんは、もっとも燃費がよいとされる時速 50 キロ～60 キロ位で走っている車が多いように感じます。そんなことを考えると、車については、オーストラリアよりも日本の方が、環境に対しての取り組みが進んでいるように思いました。

3. 動物・植物

オーストラリアの熱帯雨林は、1 億 5000 万年前のもので、世界最大のアマゾン熱帯雨林（7000 万年前）よりも古い歴史を持っています。オーストラリア固有の植物や動物も多く、特徴のある生物がたくさん生息しています。

オーストラリア固有の植物のなかには、毒をもっているものも多いようです。果実を一口食べただけで、花のにおいをかいだだけで、葉にふれただけで、意識を失ったり、体がしびれたり、ひどい場合は、死んでしまうこともあるそうです。そのような方法を用いて、植物は自らの身を守っているのでしょう。

動物も、害虫を駆除するために外国から連れてきたのに、その役目は果たさずに、数だけが増えて、逆に生態系を壊しそうになり、政府が毎年お金をかけ、駆除をしているというケースもあるようです。

オーストラリアの動物と言えば、コアラ・カンガルーなどが思い浮かぶでしょう。また、オーストラリアに行ったら、コアラを抱いて、写真を撮ってみたいと思う人も多いと思います。そんなコアラを抱くことにも制限があることを知っていましたか。今、オーストラリアでは、コアラが抱かれることにストレスを感じているのではないかと考える学者が多く、ほとんどの地域では、コアラを抱くことを禁止しているのです。私が行ったケアンズでは、観光地ということもあり、コアラを抱くことができましたが、次のような条件がついていました。



① 1 匹のコアラを抱くことができるのは 1 日 30 分。

② コアラは 3 日働いたら、4 日目は休み。

このように、コアラにストレスがたまりすぎないようにしているのです。

カンガルーも、オーストラリアならではの動物です。皆さんは、「ムチ」と言われると、調教に使うような牛革のムチを考えるでしょう。オーストラリアのムチは、カンガルー革なのです。しかも、このムチは、調教に使うものではありません。牧場などで、牛や馬を追い込むのに使われるのです。空中で円をつくるようにし、先についたクラッカーとよばれるものをひっくり返すことで、「パン」という、乾いた大きな音が鳴ります。このクラッカーがひっくり返る速度は、かなり速く、先を濡らしていても、音が鳴った後は、乾いてしまいます。

4. まとめ

今回、実際に行って調べた結果、車の面では、日本の方が環境にやさしいことが分かりましたが、オーストラリアでは、自然を守るために多くの取り組みがされていることを知りました。日本も、こうした海外のよいところを積極的に取り入れていくべきだと思います。

オーストラリアでの大きな問題は、水資源に関することでした。今の日本、特に大仙市では、水不足になることはほとんどありません。だからといって、水を無駄にしてもいいわけではないと思います。「ほんの少し」なら、私たちでも実践できます。日

本の自然環境、地球全体の環境を守るためにも、自分ができるちょっとしたことを実行する、こうした一人一人のちょっとした心構えが大切だと思います。

IV エピソード

1. 熱帯雨林散策のできごと

1月5日、マンガリフォールズの熱帯雨林散策にいきました。天気は土砂降りです。足下も悪く、目的地に着く頃には、カッパを着てもずぶ濡れ、くつも濡れて泥だらけでした。

夜に土ボタルを探しに行ったときは、雨も止んでいて、たくさんの土ボタルを見ることができました。土ボタルの光の色が、青白く見える人は、人間的な目をしていて、緑に見える人は、野性的な目をしているそうです。ちなみに、私には青白く見えませんでした。

2. ファームステイのできごと

1月6日から1月9日までの4日間、ファームステイを体験しました。私は3人グループで、お世話になったのは、アヒルとニワトリを飼育しているファームでした。



ステイ先の家族は、とても優しくしてくれました。

1日目は、近くにある3つの滝を見に連れて行ってくださいました。どの滝も、水がと



てもきれいで透明に澄んでいました。水しぶきが飛んで、気持ちよかったです。その後、ファームに戻り、庭に植えてある木や、飼育している動物について説明してくれました。木には、様々な種類があり、聞いたことがない物もたくさんありました。それから家に戻って、トランプで遊びました。ババ抜きや神経衰弱などの日本のゲームで遊んでから、オーストラリアのゲームを教えて

もらいました。初めてでしたが、とても楽しかったです。

2日目は、ファームの手伝いをしました。えさをまくと、勢いよくアヒルが集まってきました、少し驚きました。次に、木を切るところを見学しました。ファームにはたくさんの木があり、木に登ってチェーンソーで枝を落としていて、すごいと思いました。その後、苗木を植える手伝いをしました。この日は天気がよく、とても暑かったので、たった5本の苗木を運んだだけでも疲れてしまいました。

手伝いが終わったあとは、DVDを見たり、ゲームをしたりして過ごしました。夜には、日本から持参したお土産と名前を漢字にして習字で書いた紙を渡したら、とても喜んでくれました。ホストファミリーからもお土産をもらい、とても嬉しかったです。離れて暮らしているというおばあさんが作ったパッチワークの飾りとヒヨコのマスコットは、



とても手が込んだもので、おばあさんの温かい人柄が感じられました。

3日目は、買い物と釣りに連れて行ってもらいました。オーストラリアのお店のレシートは、日本のものよりも大きくて、とても驚きました。買い物が終わり、昼食を食べた後に、近くの海へ釣りに行きました。私は生まれて初めての釣りだったので、えさをとられてばかりで、何も釣ることはできなかつたけれど、とても楽しく、よい

思い出になりました。ただ、海辺の日差しは思ったよりも強く、日焼け止めを塗っていたにもかかわらず、首の後ろが日焼けで真っ赤になり、とても痛かったです。オーストラリアの苦い思い出となってしまいました。帰国後、この日焼けの跡を家族に見せたら、とてもびっくりされました。

4日目はお別れの日でした。最初のうちは、緊張していたし言葉もうまく通じなくて不安もありましたが、ホストファミリーの皆さんが、本当の家族のように優しく接してくれたおかげで、4日間は本当に楽しく、充実した日々を過ごすことが出来ました。ようやくうち解けてきたところだったので、別れるときはとても悲しくなりました。もっと長くいたかったと思いました。

3. 現地の学生との交流

1月9日に、ファームステイから戻ってきてからは、現地の学生と交流をしました。午前中は、ウォータースライダーで遊びました。私は、1回挑戦しました。スピードが出て、少し怖かったけれど、水が冷たくて、入った瞬間はとても気持ちがよかったです。



午後は、イカダ作りと、アスレチックをしました。イカダでは、落ちそうになって、すぐくぬれてしまったし、アスレチックをやっているうちに、よごれて泥だらけになってしまったけれど、現地の人に助けをもらい、とても楽しい時間を過ごせました。夢中になってやっているうちに、履いていたサンダルが壊れてしまいました。

夜には、ダンスをしました。知らない曲ばかりだったけれど、とても楽しく、ノリがよい曲ばかりでした。私たちは、ドンパン節を紹介しました。楽しんでもらえたようで、よかったです。現地の学生達は、とても積極的でした。

4. グリーン島でのできごと

1月10日、ケアンズから船に乗ってグリーン島に行きました。天気が悪く、私は、船の中で酔ってしまいました。エメラルドグリーンのきれいな海で泳ぐことが出来て、とても気持ちがよかったです。



5. キュランダ渓谷でのできごと

1月11日、キュランダ鉄道に乗って、キュランダ村に行きました。水陸両用車に乗って、様々な自然や動物を見ました。民族楽器をみたり、やり投げをみたり、ブーメラン投げの体験をしたり、踊りを見たり、先住民の人たちの文化にふれることができました。

帰りは、スカイレールというゴンドラに乗りました。森がよく見えて、オーストラリアの自然の豊かさや美しさを改めて実感しました。



V 海外研修を終えて

今回のオーストラリアへの海外派遣を通して、自然や環境についてだけではなく、コミュニケーションの大切さも学ぶことが出来ました。正しい言葉で話すことはもちろん大切ですが、「伝えよう」という気持ちをもっていっしょうけんめい伝えようとすれば、少くも間違いながらも、必ず相手に伝わるということを実感しました。

たくさんの方々のおかげで今回の派遣に参加できたこと、たくさんの方々の支えによ

って有意義な毎日を過ごすことができたことを忘れずに、これからの学校生活が充実したものとなるようがんばっていきたいと思います。

オーストラリアでの食生活

NO. 2 大曲中学校 葛西宏太

1. はじめに

私は中学校に入って今まで勉強してきた英語が、「本当に英語が使われている国で通じるのか。」と疑問に思っていたので、もし、私の英語が通じるならば、どの程度コミュニケーションが図れるのか確かめるため、オーストラリアへの中学校生徒海外派遣事業に参加しました。



2. テーマ設定の理由

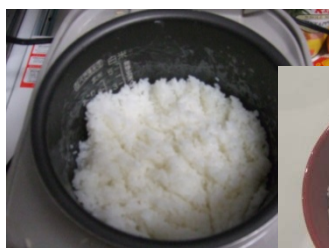
私たちがいつもしている『食事』についての話題は世界共通なので、コミュニケーションが図りやすいと思い、また、日本では大半の人たちが『ごはん』か『パン』を主食にしていますが、諸外国ではどのような食事をしているのだろうかと疑問に思っていたので、派遣先である『オーストラリアの食生活』を調べ、『日本人の食生活をどうすべきか』を考えることにしました。

3. テーマについて

(1) オーストラリアの食生活

オーストラリアと日本の食生活はどのようなところが違うだろうか。

一週間、オーストラリアで生活してみて、日本と大きく違う所は、肉料理中心の生活ということです。主食が肉でパンが付け合わせという感じです。肉は日本とは違い歯ごたえがあり、脂身の少ない肉でした。また、たくさんの人たちが 10:00 a.m. と 3:00 p.m. の間食に、ポテトチップスやクッキーなどのお菓子を日本以上に多く食べていました。このような油っこい食べ物と肉料理中心、それに間食が多いので、オーストラリアの人はぽっちゃりした人が多いのだらうと思いました。



日本の米

タイ米



最近では健康意識の向上により、牛肉など赤身の肉類の消費が減り、ポークやチキンなどの白身の肉類、魚類、穀物、新鮮な野菜の消費が増えているそうです。その中でも白いごはんが流行っているそうです。

ファームステイ先のラッセルさんの家でもらったごはんはタイ米でした。タイ米は、日本のコメとは違い細長く甘みが少ない感じでした。



マンゴーやパッションフルーツ、ミートソースの Pasta など、食べるとどれも美味しいものばかりでしたが、ホストマザーのカーメルさんの作るミートパイは最高でした。

また、オーストラリアは国内でマンゴー、パッションフルーツ、バナナ、スターフルーツなどのいろいろな果実が取れるそうです。デザートに食べましたが、とてもおいしかったです。



(2) 日本人の食生活をどうするべきか

日本は最近メタボリックシンドロームが問題になっています。これは、日本の食生活が乱れてきているからだと思います。栄養価がかたよったカロリーが高いファストフード、甘すぎるお菓子など、食生活が欧米化してきています。オーストラリアでは健康意識の高まりとともに、ヘルシーな日本食が注目されています。これから日本は、バランスのとれた日本古来の食文化を見直していくべきだと思います。

4. 行程紹介

次にオーストラリアでの行程を紹介します。

一日目

飛行機で仙台空港からグアム経由にてオーストラリアのケアンズ空港に向う

二日目

a. m. マンガリーフォールズの学生村に到着！

マンガリーフォールズのロッジ付近で遊ぶ

p. m. 熱帯雨林散策、大雨で全身びしょぬれ

[カモノハシ](#)探索（残念ながらカモノハシ発見できず。） [土ボタル](#)観賞

三日目

カーメル&ボブ・ラッセルさん夫妻の家にファームステイ。ラッセルさんの家では、日本と同じように家の中では靴を脱ぐ生活をしていました。日本を旅行した経験で清潔感を覚えたので、家の中では靴を脱ぐ生活を選んだと伺いました。

農業体験ということでラッセルさんの庭に花を植えました。



四日目

前日、庭に植えた花が三本足りなかったなので、現地の商店街に行きました。そこでは日本にはないような大きな物を売っていました。

帰りにラッセルさんの友達の家に行きました。ロブスターを取りに行くと言われ、ミニトラックで急な坂を上り下りしながら沼まで行きましたが、この日はロブスターはいませんでした。（残念ながら食することができませんでした。）

五日目

ラッセルさんの友達のマンゴー農家へ行き、マンゴーの収穫を手伝いました。green ant (緑の蟻) がたくさんいて噛まれました。(いたかゆかったです。) 蟻が多く収穫は大変でしたが、マンゴーはおいしくみんなで食しました。



六日目

a. m. カーメル&ボブ・ラッセルさんとお別れ
p. m. 現地学生と交流

急な坂を削ってできたウォータースライダーで遊んだり、アスレチックで競争したりしました。

七日目

世界遺産 [グレートバリアリーフ](#) 中のグリーン島にて、マリンスポーツ

残念ながら雨でしたが、泳いできました。



八日目

キュランダ鉄道で[キュランダ村](#)のアローフ
オールズなどを見学。帰りはスカイレール熱
帯雨林ケーブルウェイ（キュランダ村からケ
アnz市内にいくロープウェイ）でもどり、
その後、ケアnz市内でショッピング。

九日目

ケアnz空港を出発し、グアム経由で仙台
空港に到着。



6. 感想

オーストラリアの広大な自然が、なんと1億年以上も昔のままだということに驚きました。そのため、猛毒をもつ植物や貴重な動物がたくさんいると聞きました。様々なことを現地の人から英語で聞いて、コミュニケーションするにはとにかく言葉が通じなくとも話すことが重要だとわかりました。何も話さなければ何も伝わりません。何事も、相手に伝えようとすれば必ず伝わるので、少し勇気を出して話すことが大事だと思いました。

オーストラリアに行ってみて、はじめてやることも嫌がらずにチャレンジしてみることが大事だとわかりました。これからはいろいろなことにチャレンジしていきたいです。

最後にオーストラリアの風土が、私の体に合っているらしく、日本に帰ってきてからはアレルギーもなく、かぜもひかず調子がいいです。

オーストラリア海外研修を終えて

NO3 大曲中学校 川村 麻衣

テーマ：オーストラリアの家庭での役割

設定理由：私は一日の活動のほとんどが、学校・部活で占められているという現状です。そのため、外国の人々も同じような生活をしているのか、違いはあるのか、とても興味を持ち、このテーマを設定しました。

1 オーストラリアについて

これから研修に行く国を知り、知り得た情報でより積極的に参加できるように、本やインターネットでオーストラリアについて調べてみました。

1) オーストラリアの位置

赤道をはさんで日本と反対。そのため、1月の研修時のオーストラリアは真夏。

2) オーストラリアの面積

オーストラリアは約769万km²

日本は約38万km²

オーストラリアは日本の面積の約20倍

3) 公用語

英語

4) オーストラリアの農業

小麦や肉、羊毛などの世界的な輸出国

日本は小麦、牛肉、魚介類、羊毛を輸入している。

5) オーストラリアの国民

イギリスからの移住者がオーストラリアの人口全体に対して約36%

その他、ヨーロッパやアジアの国々からも移民も受け入れている多民族国家



オーストラリアの国旗

2 ファームステイ

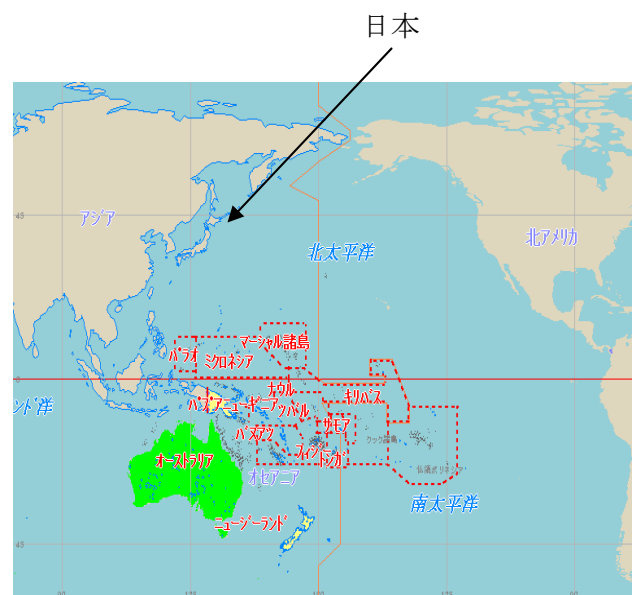
研修のテーマであるオーストラリアの家庭について、いよいよ実際に体験できることに、とても緊張しました。

家族構成

父、母、長男（11歳）、長女（10歳）

ペット

ニワトリ、犬、猫



ホストファミリーが迎えに来てくれ、マンガリフォールズから約40km離れた自宅まで車で移動しましたが、緊張のせいか車酔いをしてしまいました。

自宅へ到着。子供たちは、兄弟げんかをしたらしく、とても不機嫌でしたが、挨拶を交わしてから、すぐに打ち解けられました。

おみやげに、日本の昔からの遊びであるだるま落としを子供たちにプレゼントしました。また、折り紙を持参して、みんなで折りました。とても興味を持ってくれたようで、楽しんでいました。

英会話でコミュニケーションをとることは、とても難しいと痛切に感じましたが、子供たちはジェスチャーが上手だったので、言葉以外でコミュニケーションがとれることに安心しました。

ホストファミリーのお父さんは、朝7時前には仕事に出掛け、夕方5時頃には帰宅しました。

食事の準備はお母さんですが、子どもたちは手伝いをしたり、食器を並べたりしていました。食事の後片付けは、各自で行っていました。

朝食は、目玉焼きやソーセージ、ベーコン、ベークドビーン（豆料理）で日本の朝食と似ていました。

昼食は、パンのようなもので、小麦の輸出が盛んなオーストラリアらしく、小麦粉を使った食事が多かったと思います。

夕食は、羊肉など肉料理が多く、食後には必ずデザートがありました。

どの料理もおいしくいただきました。

日中は、お母さんと車でスーパーへ買出しに行ったり、子供たちと近くの川で遊んだりしました。



朝食



昼食



夕食

1) 日本との違いについて

- ・ 家の中は土足（ホストファミリーの子供は、裸足で過ごしていたので、私も裸足で過ごしました。）
- ・ 食事はナイフとフォークを使い、箸はありませんでした。
- ・ 子供たちは、当たり前のように手伝いをしていました。
- ・ 湯船がなく、シャワー時間に厳しい。（とても優しいお母さんですが、シャワーが長いと子供に注意している時がありました。）
- ・ 夕食後に、必ずデザートがある。
- ・ ごはん（白米）がない。

2) ファームステイの感想

明るい家庭でとても楽しく過ごしました。

子供たちは、家のお手伝いを嫌がらずにしているし、遊びはおもいきり体を動かしていて、自分の役割をきちんと果たしているようで、とても感心させられました。

日本を出発する時に一番不安だった英会話は、流暢にはいきませんでした。ジェスチャーでコミュニケーションがとれ、安心しました。



デザート

3) 日本との交流について

オーストラリアでは、ここ数年干ばつ続きでコメが不作であるため、大仙市からオーストラリアへコメを輸出するという新聞記事を読みました。

その記事を読んで、外国との交流は身近に存在すると感じ、今後更に交流を深めていくことが必要だと思いました。そのために、自分がどうすべきなのか、今何をしていけばいいのかを考えました。

これからの外国との交流に、自分が貢献できるように、知識を高めていきたいと思いました。

3 オーストラリアの自然

1) 熱帯雨林散策

マンガリフォールズのロッジから歩いて出かけました。あいにくの雨でしたが、温かく感じました。

熱帯雨林はまるでジャングルのようにでした。案内してくれたスタッフの方から、傘の骨のような花が特徴の「アンブレラツリー」は、オーストラリアの夏にだけ咲くと聞き、写真を撮りました。

夕食後、土ボタル鑑賞のため、散歩に出かけました。懐中電灯をあてると土ボタルが死んでしまうので、暗い中を歩きました。雨はやんでいましたが、ぬかるみで歩きにくかったです。日中とは変わり、涼しくなっていました。

見つけた土ボタルは、木の奥に隠れていましたが、きれいでした。

2) グリーン島

フェリーに乗り、約40分でグリーン島に到着しました。

船酔いをしてしまったことと、雨だったこともあり、せつかくの青い海、白い砂浜を思いっきり楽しむことができませんでした。

でも、日本では見たことのないような海で、とてもきれいでした。

3) キュランダ

キュランダとは、オーストラリアの先住民であるアボリジニの言葉で“熱帯雨林にある町”という意味です。

「スカイレール」と呼ばれるゴンドラでは熱帯雨林を上から見渡すことができました。遊園地のような感覚で楽しめました。

キュランダ高原列車では、走っていると、窓からとても大きな滝（バロン滝）が見えました。この滝には、自然の壮大さを感じまし



アンブレラツリー



た。

アボリジニダンスを見学したり、コアラを抱っこして写真を撮ったり、いい思い出になりました。

コアラは、おとなしく抱かれていて、思ったよりも重かったです。ワニを抱っこして記念撮影できるところもありましたが、私は怖くてできませんでした。



キュランダ高原列車

ケアンズは、日本人だけでも年間24万人が訪れる人気の観光地だと本などに紹介されていますが、実際にグリーン島やキュランダに行き、大自然のすごさを満喫でき、納得がいきました。

4 オーストラリア研修を終えて

初めての海外で、とても不安がありましたが、日本との違いを楽しめた研修であったと思います。オーストラリアの自然、生の英語、食事、ショッピングの物価など違いがたくさんありますが、実際に行ってみると、心配したよりは慌てることなく無事研修を終えられたという満足感でいっぱいです。

今回の海外研修は、私にとって将来を考える、とてもよい機会になりました。いろんな面で勉強不足な点が多いですが、今後の国際交流に貢献できるように努力していきたいと思います。



オーストラリアが、私に教えてくれたこと

No.4 大曲中学校 小西可南子

I. はじめに

今回私は、9日間のオーストラリア研修に参加した。日本では体験できないスケールの大きい自然を身近に見ることができ、また生の英語やファームステイを通して、オーストラリアの生活を実際に体感し、とても良い経験ができたと思う。そして、自分の目で見て、体感し学んだことなどを、これからの生活に生かしていきたいと考える。

今回、自主研究テーマ、「水の使用についてどうあるべきか」を出発前に考えたが、実際現地の生活を体感してみると、よりリアルに「水」の重要性を感じた。こうしたことを中心に、今回研修したことなど、レポートでまとめてみた。

II. 水の使用についてどうあるべきか。

オーストラリアでは、「水不足」が恒常的な社会現象となっており、水はとても大切に使用されている。シャワーの時間も制限されており、オーストラリアの人々は、環境に配慮しながら生活をしていると言えるのではないだろうか。

しかし、日本での私たちの生活は、環境に対してあまり意識せず水を使用していることがほとんどだと思う。そのため、オーストラリアを見習い、私たちの生活習慣を見直しながらも、これからどの様なことが私たちに出来るのかを考えていく必要があると思い、このテーマを設定した。一人一人が水を汚さないための工夫、そして、水を大切に使おうという気持ちがあれば、今問題となっている水、海や川の汚染という状況も少しは変わるかもしれない。

III. 調べた内容

1、オーストラリアの水不足から学んだこと

今、オーストラリアでは、水不足が大きな問題となっている。地球温暖化に伴う深刻な水不足は、農業や生活に大きな影響を与え始めている。インターネットで調べてみると、一昨年、オーストラリアでは雨が降らず、史上類を見ない「干ばつ」により、農作物が不作となり、世界的な穀物市場（小麦）に影響を与えたという。また、果実（ぶどう）も干ばつで収穫が半減しているという話を父から聞いた。

オーストラリアでは、現在恒常的な「水不足」であり、一般生活にもその影響が及んでいる話を聞いていた。実際、オーストラリアでの生活では、いかに水が大切にされているのかを、体感することが出来た。



まず、お風呂について。日本と異なり、浴槽はなくシャワーのみが普通だ。

日本では、シャワーで体を洗ったり、ゆっくりと湯船に浸かってリラックスしたりと、お風呂に入っている時間は、20分くらいはある。しかし、オーストラリアでは、そんなに時間をかけてはいられない。5分から10分程度で終わらせなければなら

ない。

また、食器を洗う時も、水を溜めておき、その中に一回入れて汚れを落としてから最後にすすぐというような、水の使用を最小限に抑える工夫をしていた。対照的に日本の私たちの生活では、水を出しっぱなしにして食器を洗ったり、歯をみがいたりしてしまうことが普通に行われている。オーストラリアでは、いかに「水」が貴重で大切にされているかが、こうした生活を通して理解できた。普段何気なく使っている「水」のありがたさを十分感じる事が出来たと思う。

オーストラリアでは、水の無駄使いをせず、日々の節水を心がけていた。これは、私たち日本人が、学ばなくてはならない点だと思う。特に、私たちが住む秋田県大仙市は、自然環境にも恵まれ、水はふんだんにあり、困ることはない。しかし、四国地方では、近年地球温暖化現象で「水不足」による給水制限が行われているという。

いずれ近い将来、恵まれた大仙市でも、ありうることなのかもしれない。地球規模でそうした現象が起き、砂漠化している話も他人事ではないと思う。

こうした経験を通じ、環境に配慮した日々の「節水」や「節電」に心がけることが、私たち中学生にできることだろうと思う。地球上の限られた資源のことを考え、生活にいかしていくことを、オーストラリアで教えられたと思う。

2、オーストラリアの「土ボタル」の生態から学んだこと

次に私がオーストラリアで感動した「土ボタル」のこと。現地では、グロー・ワームス (Glow worms) と呼ばれていた。「土ボタル」は、オーストラリアとニュージーランドの一部でしか見ることのできない稀少生物であり、日本のホテル同様体内で生成される物質を化学反応させ、青白く発光させる。ケアンズ郊外のマンガリーフォールズでの、夜の土ボタル鑑賞は、忘れることの出来ない思い出だ。日本のホテルは、光ったり、消えたりし、点滅型の発光現象であるのに対し、オーストラリアの「土ボタル」は、発光しっ放しの状態である。それは虫を引き寄せるためだという。「土ボタル」は、周りに金色の糸を張り巡らせており、光に寄って来る虫が糸に引っ掛かったところを捕まえて食べる。まるでクモのようなホテルなのだ。しかも、群れで行動するため、幻想的であり、見たことのない輝

きにとっても感動した。ガイドさんが、「青白く見えるのは普通の人間の目、緑っぽく見える人は野生的な目を持った人」と解説してくれた。私には、緑がかった光に見えたので、育った環境からありのままの色を識別できるのかなと思った。

「土ボタル」は、澄んだ水辺にしか生息せず、蒸し暑い気象つまり亜熱帯気候のジャングルの中でしか見ることができない。また、非常にデリケートな虫で、光で照らされると「自分の明かりは不要」と認識し、発光をやめ化学反応をしなくなり死んでしまうらしい。そのためこの虫は、観光の目玉になっているにもかかわらず、ライトアップもされず、参加者は懐中電灯のみを持参し、足元しか照らしてはダメという厳しい条件がつく。もちろんフラッシュつきのカメラも使用してはならない。



マンガリーフォールズの滝の周辺は、ごみ一つなく、とても綺麗な環境で、澄み切った水が流れていた。

←左の写真は、土ボタル生息地の上流部分。

ガイドさんは、エコガイドの資格を持っていて、自然に危害を加えないことや、幅広い自然や文化についての説明、また自然に対するマナーの向上の3点を教えてくれた。地元では、環境にとっても気を使っていて、きれいな水を守るために努力しているとのこと。こうしたすばらしい自然環境に誇りを持ち、厳しい見学マナーを要求するオーストラリアのモラルの高さに、自然や環境の大切さを学ぶことができた。あとで調べてみると、このエリアは、世界遺産に登録されていた。環境を大事にし、きれいな水を保つ。そして一人一人が「水」の使用について汚さない工夫をすることが日常的になっているのは、すばらしいことだと思った。私たちも、マナー向上や「水」の使い方について、もっと関心をもたなければならないと思った。



←ファームステイでお世話になったロベットさん親子

IV. エピソード

1 ☆ホームステイでの出来事！



私が、ホームステイした“ロベット”ファミリーは、バッファローを飼育していた。そのバッファローからとれた乳をチーズやバターなどに加工して、生計を立てている。

私は、まず始めに、バッファローの餌やりを手伝った。バッファローは、乾燥した草とすり潰したトウモロコシを主食にしている。バケツの中に餌を入れてあげると、ものすごい勢いで食べていた。バッファロー

は、トウモロコシが好物で、細かい粒状の飼料をなめるかのように、美味しそうに食べていた。

次に、バッファローの子供にミルクをあげた。ミルクをあげる時は、哺乳瓶の底を、なるべく上に向けてあげる。そうでなければ、まだ歯が十分に生え揃っていないために上手く飲めないのだ。しかし、子供といえども哺乳瓶を吸う力はとても強く驚いた。元気で丈夫なバッファローに育つために、ケージ飼いだけではなく、日中は外に放牧している。ロベットさんはバッファローに愛情をもって、自分の子供のように名前をつけて、接していた。



バッファロー（水牛）のチーズは、イタリアのモッツァレラチーズが有名だが、ここマンガリーフォルズでは、バッファロー独特の真っ白いチーズで、臭みがほとんど感じられないものだった。しかし、くせが後に残る印象があり、日本では食べたことがないものだった。ロベット家では、このチーズにペッパー（黒胡椒）をかけて食べていた。私も挑戦したが、けっしておいしいとは言えず、奇妙な味わいだった。

ファームステイの最後に、バッファローから搾った牛乳の袋詰めや出荷の手伝いをした。その際、従業員の小学生の女の子も手伝いに来ており、一緒に作業をした。そのときの会話が楽しく作業もはかどった。

また、ロベットさんの親戚の家に遊びに行った時、その家の小学生（6年生）には驚いた。ホームステイを通して日本人に慣れているとはいえ、「私日本語、大好き」と日

本語で話しかけてきてくれたことである。しかも、部屋には漢字の入ったカーテンがかけてあり、とても日本に興味をもっているようである。日本語でコミュニケーションをしていくことに積極性が感じられた。だからこそ、小学生なのに日本語が上手になるんだなと思った。私もこれから様々な国に行くことがあるかもしれない。言葉が通じなくては、コミュニケーションは難しいだろう。積極的にコミュニケーションを図ること、そして語学をある程度マスターすること、そうすれば、もっともっと楽しい触れあいができ、交流が深まると思う。こうしたことをオーストラリアの小学生からも学ぶことが出来た。

2、グリーン島～グレートバリアリーフでの出来事

グリーン島は、世界遺産のグレートバリアリーフの中にある美しい島だ。しかも驚いたことに「さんご礁」だけでできた島で、「グレートバリアリーフの宝石」と呼ばれているそうだ。ケアンズから高速艇で約45分。その美しき島で私は、シュノーケリングに挑戦した。シュノーケルとフィンをつけて、さんご礁や熱帯魚を見ながら、透き通るエメラルドグリーン色の海を潜る。しかし、フィンをつけたのは初めてで、足だけが浮いてなかなか上手いかなかった。フィンをはずし、やっと潜れるようになった。図鑑や水槽の中でしか見たことのない様々な熱帯魚の美しさ、緑色のさんご礁、白い砂浜、別世界にいるような思いだった。たくさんの色に出会える、まさに感動の海である。

飛行機の中から見たグレートバリアリーフ。エメラルドグリーン色で、とても綺麗だった。まだ帰りたくないなーと思うほど、楽しく忘れられない沢山の思い出ができた。



V. 最後に

最後に、オーストラリアに行ったことは、私にとって、大きな収穫となった。これからますます身近になってくる国際社会において、積極的なコミュニケーションは、とても重要だということを学んだ。学ぶチャンスを与えてくれたたくさんの人たちに感謝しながら、今後の自分に生かしていきたい。

大仙市のエコ活動はどうあるべきか？

No.5 大曲中学校 佐々木裕

I はじめに

今回、僕はこの海外派遣事業に参加するにあたり、「大仙市のエコ活動はどうあるべきか？」というテーマを設定しました。

近年、「地球温暖化」という言葉をよく耳にします。この問題を解決するために、リサイクル、新エネルギーの開発、節水など、様々なエコ活動が行われています。そこで、これから行くオーストラリアでは、どんなエコ活動を行っているのか、また、大仙市との違いはなにか、などを疑問に思い、このテーマを設定しました。

II

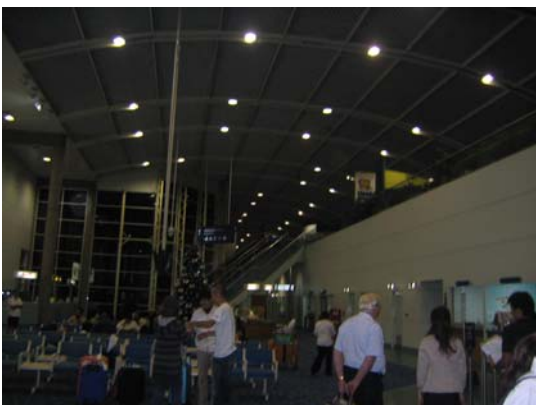
1 初日

待ちに待った出発の日。前日の夜は気分が高ぶってなかなか寝付けませんでした。大仙市役所で出発式を行い、バスで仙台空港へ向かいました。

仙台空港で出国審査を受け、出発ロビーで待っていると、目の前にこれから自分達が搭乗する飛行機が待っていてくれました。

仙台空港から約4時間、グアム空港に着きました。そこで2時間待った後、ケアンズ行きの飛行機に乗りオーストラリアへ向かいました。

ついに、到着。ケアンズ空港です。とてつもなく眠いです。それもそのはず、到着時刻は現地時間の午前1時です。しかも、まだ旅は終わっていません。ここからバスでマンガリーフォールズまで3時間弱かかります。体力には自信があったものの、もうぐったりです。



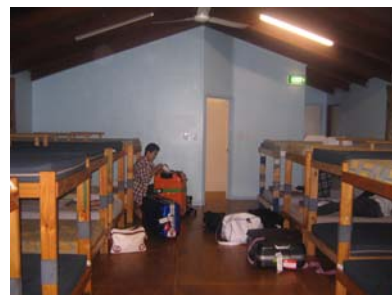
(ケアンズ空港) ↑

あまりにバスが揺れたため、ほとんど眠れずマンガリーフォールズに着きました。マンガリーに着くと、泰斗さんという日本人スタッフの方が迎えてくれました。レインフォレスト（熱帯雨林）ロッジという、20人ぐらい泊まれる大きい部屋に、寂しく男子4人で泊まりました。が、到着が午前3時過ぎだったので、もう眠気というものを通過し、まったく寝付くことができませんでした。

2 二日目

この日は前日の到着が遅かったので、午後からの活動となりました。マンガリーフォールズの周りに広がる熱帯雨林散策やカモノハシ探索、土ボタル観賞をしました。

(小型のカンガルーのワラビー) →
(マンガリーフォールズ) ↓



(レインフォレストロッジ) ↑

3 三日目

この研修旅行のメインプログラム、ファームステイへ出発！今回僕たちがステイさせてもらったのは Russell Bob、Carmel さん夫婦のお宅でした。Russell 家はマンガリーフォールズから約 20 km のところで、小高い丘のてっぺんにある家です。周りには農場が広がっており、犬や猫、にわとりなどといった動物もたくさんかっています。ファームステイ初日は、家の前の石垣造りをしました。その後はプールに入ったり、卓球やビリヤードなどをして楽しみました。



(僕たちの部屋) ↑

4 四日目

この日は少し遠くのスーパーまで買い物に行きました。そこでは、日本でもよく見かける「エコバッグ」を売っており、多くの人々がエコバッグに購入した商品を入れていました。

(ベランダにあるプール) ↓



(現地の病院らしきもの) ↑



5 五日目

一昨日の石垣造りの続きをした後、ホストファミリーにそうめんをご馳走しました。とても喜んでくれたので、日本から持っていった甲斐があったと思いました。その後はホストファミリーの知人のお宅に、マンゴーがりをしに行きました。長い枝切バサミのようなものでマンゴーを取るのですが、コツをつかむまでが難しく、マンゴーを地面に落としてしまったりもしました。家に帰ってからは、ホストファミリーとトランプやボードゲームをして、ファームステイ最後の日をすごしました。

(収穫したマンゴー) ↓

6 六日目

ホストファミリーに別れを告げ、その後マンガリーフォールズで現地の学生との交流がありました。午前中はランドスライドというウォータースライダーのようなものをやりました。120mほどの傾斜を時速約60kmで滑り降り、最後は沼にダイブするというものです。午後は、チームラフトビルドといういかだ造りをしました。夜は雨のため、キャンプファイアーは中止になってしまいましたが、室内で現地の学生とオージーブッシュダンス（フォークダンスのようなもの）をやりました。



(ランドスライド) →

7 七日目

朝早くにマンガリーフォールズを出発。バスで約2時間、ケアンズに着きました。そこで30分程自由時間をすごした後、船でグリーン島へと向かいました。グリーン島に到着し、最初にグラスボトムボートという、底面がガラス張りになっている船に乗りました。昼食を食べた後、海水浴などをして楽しみました。そしてケアンズに戻り Cairns Colonial Club Resort というホテルに泊まりました。とてつもなく広い敷地で、フロントから部屋まで行くのが一苦勞でした。



(キュランダ鉄道) ↓

8 八日目

長かったようで短かった海外研修もついに最終日。キュランダ鉄道に乗ってキュランダ村へと向かいました。そこでアーミーダックという第二次世界大戦中に使われた水陸両用車に乗って、世界最古の熱帯雨林を探検しました。昼食を食べた後、今度は先住民アボリジニの槍投げやブーメラン投げを体験しました。そしてアボリジニのダンスショーを見た後に、スカイレールというロープウェイに乗ってケアンズへと帰りました。



(アーミーダック) ↓

スカイレールのケアンズ駅からバスでケアンズ市中心地へ行き、各自自由にケアンズ市内を観光しました。大橋巨泉さんが経営している「OKギフトショップ」に荷物を置いて、「カフェチャイナ」という中華料理の店で夕食を食べ、ナイトマーケットという市場で買い物をしました。



9 九日目

バスでケアンズ市内から15分。ケアンズ空港に到着です。ここにきてとうとう旅も終わりだな・・・と思いつつ、夏服から冬服に着替え出発の準備をしました。免税店で最後の買い物をして、オーストラリアドルを日本円に換金し、もう思い残すことはありません。飛行機に乗ってグアムへと出発です。

午前6時、グアム空港到着。ここでまた2時間のトランジットです。

ついに着いた。仙台空港です。税関のおじさんも日本人です。なんだかついに帰ってきた、という感じです。そこからバスで約2時間30分、大仙市役所に到着。皆さんお疲れ様でした。

IV まとめ

オーストラリアは非常に水が貴重な国であるため、雨水を貯水するタンクが、たくさんの家庭にありました。さらに、日本のように道路にごみが落ちていたということもなく、非常にきれいな町でした。このように、かぎりある資源を大切にすることや、国民全員で自然を守る、といったことが大仙市よりも非常に優れているということがわかりました。どれも当たり前のことですが、とても重要なことだと思うので、大仙市、そして日本でも考えていかなければならないことだと思います。

(貯水タンク) ↓



V 最後に

今回この海外派遣事業に参加して、オーストラリアという異国で様々な体験をしてきました。特に僕が研究テーマに設定した環境保護という観点からオーストラリアでの一週間をふり返ってみると、日本とオーストラリアとの違いを十分に感じることができました。この経験を今後の生活、そして僕たちの住んでいるこの大仙市のために生かしたいと思います。

自主研究テーマ： 日常生活の過ごし方はどうあるべきか。

NO. 6 大曲中学校 藤本洋子

1 希望した動機

私は現在、大仙市の非核平和レポーターを務めさせて頂いています。レポーターの研修では、被爆地の広島県まで足を運び、被爆者のお話を聞いたり、原爆ドームを見たりと、自分の目で見て、自分自身の経験を増やし、視野を広げることの大切さを学びました。そして、今回はそれらの経験からまた更に、自分の視野を広げていきたい、そして若いうちに沢山のことを経験しておきたいと思った為、この海外派遣事業への参加を希望しました。

2 現地研修

【1日目（1月4日・月曜日）】

★日記★

この日は一日中移動でした。最初の飛行機に乗ったとき、私は初めて自分の目で上空からの日本列島を見ました。上空から見た日本は深緑色をしていて、わずかではあるものの、高層ビルなども見る事ができました。それから、グアム空港でのフリータイムも良い経験でした。グアムは世界でも有名な観光地ということで、日本円でも買い物することができ（ただしおつりは米ドル）、私はキーホルダーを一つ買いました。



↑グアム空港内にて。

【2日目（1月5日・火曜日）】

★日記★

この日は午前中は猛暑だったものの午後は大雨で、ずぶ濡れになりながらも熱帯雨林散策をしました。世界最古の熱帯雨林であるということで、ロッジでは、ポイ捨て・汚物の処理・水の使用方法など、自然保護に関することにはかなり気を遣っていました。



↑沢山自然があるロッジ敷地内！

そして、夜には土ポタル鑑賞をしました。土ポタルの光は、青白くてきれいでした。ちなみに、野性的な瞳の人間には緑色の光に見えるそうです。

★日常生活の過ごし方はどうあるべきか★（この日学んだこと。）

1…【自然を大切に保護するべき。】（ポイ捨て、資源の無駄遣いはしない。自然は、有名でなくても、有名ならなおさら、みんなで守っていくべき。）

2…【生き物を十分に楽しむべき。】（日本にいても、身近に沢山の生き物がいる。

せっかくだから、触れあって、楽しむべき。)

【3日目～5日目（1月6日・水曜日～8日・金曜日）】

★ファームステイ in NOBLEさん家★

★家族構成★

父・グレッグ…仕事の為、あまり話せなかったのですが、とても優しい方でした。

母・ハイディ…優しく、明るく、たくましい方でした。ダンスが大好きだとか。

長男・ジャコブ……小6で癒し系の男の子でした。シェフになるのが夢だそう。

長女・タイラ……小5の大人っぽく、几帳面な子でした。沢山遊びました。



↑ホストマザーのハイディと。
左から2番目が私です。

★日記→①日目★

この日は主に名所の観光をし、そして子供達と遊びました。観光では、自然の沢山ある、オーストラリアならではの名所に幾つか連れて行ってもらい、自然を満喫させていただきました。

マンガリフォールズは、自然が沢山ある分、デパートや住宅街などがなく、車の通りも少ないので、時速100kmで普通にドライブをする所でした。速すぎたので、ただのドライブでも、とても楽しめました。



↑これがマンガリフォールズ★

子供達とは、お互いの国の遊びを教えあいました。ホストファミリーのタイラは私たちに、ボールを隠し、それを探し出すといったゲームを教えてくださいました。オーストラリアの子供は大自然の中で育っている分、隠すところも、木登りをしなくては届かないところなどだったので、探すのも大変だし、何より、見つけた後そのボールをゲットするまでの過程が本当に大変でした。それから



↑只今、風力発電中～♪

私たちは、日本の「かくれんぼ」と「地藏おに」という、鬼ごっこの一つを教えてあげました。説明をするのも、聞くのも英語だったので、意志疎通は大変でしたが、ジェスチャーや自分の学習成果を生かし、説明しました。慣れてくると英語が自然に理解でき、英語だけの会話ができるときは、本当に嬉しかったです。

★日記→②日目★

この日は、大きなスーパーにつれて行ってもらったり、家の敷地内にある川で遊んだりしました。そして、夜にはなんと、「カエル狩り」をしました。

この日は、長女タイラの親友・グレイスが遊びに来ていて、私達は二人に呼ばれて外に出ました。すると突然、タイラが懐中電灯でカエルを照らし、グレイスは木の棒で**体長10センチほどのカエルを殺し始めたのです**。最初は、ここの国の子供はなんて残酷な遊びをするのだろうと衝撃を受けましたが、途中で意味を聞いてみると、毒ガエルだから成長する前に殺すとのことでした。オーストラリアの子供、しかも女の子のたくましさ、とても感心しました。



ちなみに、この日**狩ったカエルの数は26匹**。↑カエル狩りでの一コマ。
その後は、星がよく見えるオーストラリアにきたと言うことで、楽しく話しながら**星空鑑賞**をしました。日本と違い、とてもよく見えました。

★日記→③日目★

ファームステイ最終日ということもあり、**ピクニック**に出かけたり、**おみやげ屋さん**に連れて行ってもらいました。そして、ドライブ中に観光名所があるたびに立ち寄り、自然を満喫しました。特に印象に残ったのは、右の写真の木で、**実は1本の木なのだ**とか。この木は本当に大きかったです。そして今日、**シャワー使用時間最短記録を更新**しました。3分です。**オーストラリアは水を大切に**する国なので、**シャワーの使用も5分程度**なのですが、この日は自己最短記録を更新し、自己満足して一日を終えました。



↑話しながら星を鑑賞中♪

★日常生活の過ごし方はどうあるべきか★

(この3日間で学んだこと。)

3…【**水を大切に使うべき**。】(日本でも水を大切に、必要最小限で使用する。水を大切に使うと、エコだけではなく節約になり、一石二鳥。)

4…【**何事もためらわず行動すべき**。】(カエル狩りで、自分より年下の子が大変行動的で、自分が少し恥ずかしかった。だから、行動力を身につけるべき。)

5…【**自分の使った食器を洗うべき**。】(オーストラリアでは子供達でさえ、自分で使用した食器は自分で洗っていました。日本の子供もそうあるべき。)

【6日目(1月9日・金曜日)】

★日記★

今日は**現地の学生と交流**しました。現地の学生は男女の仲もよく、積極的で、



←ピクニック中に観光した大きな木。

右から2番目が私です。

何よりフレンドリーで友達になりやすかったです。そして夜は、みんなで**ダンスパーティー**をしました。ダンスを踊るのもすごく楽しかったのですが、現地の学生のルウちゃんと、お互いの特技である**アクロバットを披露しあったのが**すごく楽しかったです。また、勝負したいと思っています。

★日常生活の過ごし方はどうあるべきか★

6…【**もっと積極的になるべき。**】（日本人は少し消極的。だからこそ、心を開いて積極的に生活をするべき。）

↓**グリーン島の海!水が青くて綺麗。**

【7日目（1月10日・土曜日）】

★日記★

今日は、**世界遺産のグリーン島**に行ってきました。グリーン島の**水は、色が青くて本当に綺麗**で、珊瑚礁にしか生息しない魚なども見ることができました。あまりに綺麗すぎて、とても感動しました。



★日常生活の過ごし方はどうあるべきか★

7…【**身の回りにある感動を発見すべき。**】（日常生活の中にも、実は沢山の感動が隠れているはず。沢山の感動を発見し、若い間に感性を育てるべき。）

【8日目・9日目（1月11日・日曜日&12日・月曜日）】

★日記★

今日は、溪谷を走る**キュランダ鉄道**のったり、**水陸両用車**にのって、**ケアンズ**の**自然を体感**しました。鉄道では、広大な砂糖黍畑を見たり、大きな滝を見たりと、豊かな自然を沢山観光することができました。夜には、スーパーなどで買い物をし、家族や友人へのおみやげを沢山買いました。



↑**キュランダ鉄道。**

そして、いよいよ日本へ向けて出発。充実した9日間でした。

★日常生活の過ごし方はどうあるべきか★

8…【**色んな所に行って、沢山のことを吸収するべき。**】（キュランダ溪谷を走ると、初めての景色にただ、驚くばかりでした。そうやって日常生活でも沢山のことに目を向けて吸収していくべき。）

3 最後に

水の入った水槽にスポンジを入れてみる。すると、スポンジはどんどん水を吸収していきます。私のこの9日間もそのように、沢山のものを吸収した毎日でした。そして今後は、その吸収したものを大切にし、自分の成長に役立ていきたいです。最後に、私にチャンスを与えてくれたこの事業に感謝したいです。

安全で健康な食生活を送るにはどうすれば良いのか

No.7 大曲中学校 1年 武田万由子

I.はじめに

私がオーストラリアの食事に興味を持ったのは、自分がバスケットボールをしていて、丈夫な体になるにはどうすればいいか、と思ったからです。私のポジションはセンターで、身長が高かったり体格が良かったりすると有利になります。オーストラリアの人は、私の知る限りは体格の良い人が多いので、これからのバスケのプレーにもつながると考えこのテーマを設定しました。

II.内容

オーストラリアに着いてから食べたものを写真つきで紹介します。次のように色分けしてみました。

穀物=■、パン=■、麺類=■、肉類=▲、魚類=▲、乳製品=▲、野菜=●、果物=●、その他=★

1日目 マンガリーフオールズ・ロッジ

朝 シリアル■、ソーセージ▲、スパゲッティ■

昼 ハンバーガー(パン■、ハンバーグ▲、レタス●、トマト●、チーズ▲、オニオン●、パイン●)



夜 スパゲッティボロネーゼ■、ガーリックトースト■、サラダ●



2日目 ロッジ→ステイ先

朝 パン■、ソーセージ▲、スープ●

昼 ソーセージ▲、赤カブ●、オニオン●、パン■、マンゴー●



夜 ポテト●、野菜炒め●、シチュー▲、パン■、チョコプディング★

3日目 ステイ先

朝 オープンサンド(トースト■、ハム▲、チーズ▲、トマト●)、ヨーグルト▲

昼 そうめん■、サラダ●、マンゴー●



夜 สปาゲッティ■、ビーフステーキ▲、バナナソースがけフルーツゼリー●

4日目 ステイ先

朝 オープンサンド(トースト■、ハム▲、チーズ▲、トマト●)、ヨーグルト▲



昼 パンプキンスープ●、サラダ●、ソーセージ▲、パン■



夜 ハンバーグ▲、野菜炒め●、ポテト●、パン■、フルーツのミルクソースがけ●



5日目 ステイ先→ロッジ

朝 オープンサンド(トースト■、ハム▲、チーズ▲、トマト●)、ヨーグルト▲



昼 ピザ■

夜 BBQ(ビーフステーキ▲、ポテト●、パン■、サラダ●)



6日目 ロッジ→グリーン島→ホテル

朝 パン■、スパゲッティ■、スープ●

昼 ステーキ▲、サラダ●、ポテト●

夜 白身魚のフライ▲、パン■、サラダ●、ポテト●、フルーツ●

7日目 ホテル→キュランダ→ケアンズ

朝 パン■、サラダ●、フルーツ●

昼 パン■、スパゲッティ■、ポテト●、ステーキ▲、サラダ●

夜 中華料理(焼きそば■、炒め物●、酢豚▲●、ご飯■)、杏仁豆腐★

III.分かったこと

オーストラリアの人は肉ばかりを食べているイメージをもっていました、しっかり野菜も摂っている事が分かりました。ロッジで食べたサラダは生野菜でしたが、ステイ先で食べたサラダは茹でたパスタなどが入りおえ物のようでした。ステイ先で食べた野菜は庭にある畑で作っているため、農薬はできる限り使用しておらず安心です。ロッジのものも近くの町の農家からもらった野菜なので、安心して食べることができます。

肉は、オージービーフといって100%国産でした。オージービーフは日本の高級牛肉と比べ、脂肪が少なく非常に噛み応えがあります。オーストラリアの人は、やわらかく溶けるような肉は噛んだ感じがしないのであまり好きではなく、しっかりした食感の硬めの肉を好むようです。

魚は、7日間で、1度しか食べていません(ホテルディナー)。ケアンズは海に近い町なので、えびなどを結構食べられるかな、と思っていましたが、期待はずれでした。ステイ先でもロッジでも食べなかったこと、スーパーにもそれほど種類が無かったことを考えると、生活の中で魚がメインになることはあまり無いようでした。

IV.まとめ

健康で安全な食生活を送るためには、さまざまな栄養(たんぱく質、炭水化物、脂質、無機質、ビタミン)をバランスよく摂ることが大切です。この事について、改めて考えさせられたので、これから少しずつ自分の食生活を変えていきたいです。最近では食事に関する様々な取り組みも行なわれているので、日々の生活のため、自分の体のために、少しでも知識を取り入れていきたいです。そして、自分の体の管理をしっかりできるよう努力していきます。

V.オーストラリアでの思い出・出来事

- ・ 野生のカンガルーやワラビーなど、生き物をたくさん見ることができて楽しかった。
- ・ オーストラリアの人が「アルデンテ」という言葉を知らなくて、びっくりした。そのせいかスパゲッティがやわらかすぎて美味しくなかった。
- ・ せっかく苦労して滝つぼを見に行っただのに土砂降り写真が撮れなかった。
- ・ マンガリーで世界一大きい蛾を見た。
- ・ ステイ先で、そうめんを茹でて失敗した。でも、喜んで食べてくれた。でも、半分以上残った。
- ・ 部屋が可愛かった。天井に星のシールが貼ってあって綺麗だった。
- ・ スーパーで買ったソーセージがとても大きかった。全部食べられなかった。
- ・ ペットの犬になめられて全身が臭くなった。
- ・ 初めてマンゴーを一人一個ずつ食べた。甘くて、大きくて美味しかった。
- ・ 大嫌いなバナナを食べた。頑張った。
- ・ 庭に、いろんなフルーツの木があった。
- ・ ステイ先のママと、同じグループの皆とボードゲームをして、負けた。ビリだった。
- ・ 1日に2匹ゴキブリを見た。
- ・ 蛙がすごく大きかった。ママがなでて可愛がっていた。
- ・ グリーンアイランドの珊瑚礁は、雨が降っているときでもきれいだった。魚もいっぱいいた。
- ・ ずっと雨が降っていたけど、海水浴が楽しかった。足だけだったけど、すごく楽しかった。
- ・ ホテルのディナーに魚が出てきて嬉しかった。
- ・ ホテルの庭（通路？）で10匹以上蛙を見た。逃げた。
- ・ 部屋が思ったよりも広くて、ベッドもふかふかで気持ちよかった。
- ・ キュランダでアボリジニの人の槍投げやブーメラン投げを見て、迫力があってすごいと思った。実際にブーメラン投げをやって、なかなかうまくいかなかった。
- ・ アボリジニダンスを見て、変な動きがたくさんあって、難しそうだった。
- ・ ケアンズで、たくさん買い物をした。150ドル以上使った。

VI.最後に

テーマに沿って調べたことはこれから繋がることなので、バスケやこれからの生活のために生かしたいです。また、今回貴重な経験をオーストラリアですることができました。これからも英語の勉強を頑張って、またオーストラリアに行きたいです。いつかは一人で行って、またステイ先のパパとママに会いたいです。

オーストラリアの自然と生活を体験して

No.8 大曲中学校 藤肥 寧緒

飛行機で約8時間半、私はオーストラリアのケアンズという街に行ってきました。ケアンズの空港からバスで1時間ほど行くと、私たちの泊まるマンガリーフォールズに着きました。

ロッジではマンガリーフォールズのスタッフの方から3つのお話がありました。1つ目はオーストラリアは水を大切に作る国なので、シャワーは5分から長くても10分までということ。2つ目は宿泊する部屋の水を飲んではいけないこと。3つ目はオーストラリアの草や葉っぱは毒をもっているものが多く、触れただけでやけどをしたり死んだりしてしまうものもあるので、簡単に触らないでほしいということでした。

私はその話を聞いただけで日本との違いの大きさにびっくりしました。日本では当たり前のように水道水は飲むことができるしシャワーも長く使っています。葉っぱにしてもきれいな形のものがあると日本では押し花にしたりするのに、オーストラリアでは触れただけで危険だなんてとても驚きました。そのとき初めて異国の地に来たんだなあ実感しました。

次の日は、ロッジから少し歩いたところにあるウォーターフォールカフェで朝食をとりました。日本は朝からごはんとお味噌汁、卵焼きや焼き魚などしっかりと朝食をとるのに比べて、オーストラリアの朝食はパンやシリアルにじゃがいものスープ、おかずはソーセージなどで、とても軽食に感じられました。私の家ではいつも朝ごはんはお米なので、慣れないシリアルやパンに少し戸惑いました。

朝食のあとロッジに戻ってから少し休憩をとって、午後から現地のスタッフと一緒にでかけました。熱帯雨林散策ではオーストラリアにしかない植物などの説明を聞きました。途中で激しい雨が降り出し、持っていたバッグがびしょぬれになってしまい大変でした。しかし現地のスタッフが案内してくれた滝を見たとき、高いところから流れ落ちる様子がすごくきれいで、雨にぬれたことさえも忘れていました。

夕方からはオーストラリアだけに生息するカモノハシ探索にでかけましたが、残念ながらカモノハシは現れず見ることはできませんでした。夕食のあと土ボタルを見に出かけました。あいにくの雨でしたが土ボタルは見ることはできました。土ボタルはピカピカ光ってまぶしかったです。

次の日はオーストラリアにきた中で最も楽しみにしていたホストファミリーとの面会でした。私たちがファームステイする家のお母さん、タナに英語で自己紹介したあと、タナ

の運転する車でステイ先に移動しました。移動中の車の中で、自分の英語が通じるかどうか、ホストファミリーの質問に英語できちんと答えられるかどうかとても不安でした。しかし車の中からみたオーストラリアの広大な景色に、そんな不安な気持ちはどこかに吹き飛んでいました。どこまでも広がる草原やたくさんの動物たち、日本では見ることのできない素晴らしい景色にさっきまで不安だった気持ちが一瞬で明るくなりました。

ステイ先のお宅に着くとお父さんのロベットと、2歳のかわいい女の子リア、それにイヌのボブとサリーにネコのジジ、その他鳥とウサギなどの動物たちが私たちを出迎えてくれました。

部屋の案内をしてもらい荷物をおろしたところで早速ファームの仕事をしに行くと言われ、家から車で5分ほどのファームに向かいました。

バッファローの群れ



到着すると約30頭のバッファローが群れをつくっていました。大きな体に鋭いつノ、初めて見る大きな大きな動物に私はとてもびっくりしました。

10頭ほどのバッファローの赤ちゃんも、生まれて間もないのに体がとても大きくて、小さなツノが生えていました。大人のバッファローのように立派なツノではありませんが、小さなツノとクリクリの目がかわいらしかったです。

赤ちゃんバッファロー



午後からはホストファミリーと一緒にDVDを見たりTVゲームをしてとても楽しかったです。

絶品グラタン



その日の夜ごはんはグラタンでした。私の大好物のチーズやポテトがたくさん入っていてとってもおいしかったです。

りんごのケーキ



シャワーのあと食べたデザートはりんごがたくさん入ったケーキのようなもので、甘くてとてもおいしかったですのですが、量が多く食べきれなくて残してしまい、タナに申し訳ないなあと思いました。

三日目はお父さんが動物園に連れて行ってくれました。動物園にはチーターやライオンなどがいて、その中でも一番びっくりしたのは、きれいな羽をもったくじゃくがフェンスの中ではなく普通に園内を歩いていたことです。



そのあと動物園から少し離れたところにあるショッピングセンターで買い物をし、ジュエリーショップで手作りのブレスレットを買いました。

ステイ先最後の夕食はピザでした。タナのピザはベーコン、チーズ、玉ねぎと一緒にパイナップルが入っていてとても美味しく、全部残さず食べました。

次の日の朝食後家族とお別れしました。とてもよくしていただいて、本当に楽しい家族だったので離れがたく泣きそうでした。そしてお父さんがロッジまで車で送ってくれました。車の中では、「もう今日で楽しかったファームステイは最後なんだ」と思うととても寂しくて、みんなもあまり元気がありませんでした。ロッジに着くとお父さんが「またオーストラリアのケアンズに来てね」と言ってくれたので私たちはがんばって笑顔で手を振り別れました。

ロッジに一泊し次の日はグリーン島へと向かいました。バスで少し行った所から船でグリーン島へ行きお昼を食べてから海水浴をしました。グリーン島のスタッフの方からスノーケリングを借りて海に入ると、ゆらゆら揺れるサンゴやすすい泳ぐきれいな魚が見えました。大きな魚から小さな魚までたくさんの魚たちが気持ちよさそうに泳いでいました。

その日の夜はコロニアルクラブリゾートに泊まりました。レストランで食べた夕食は魚のフライやフライドポテトなどでとてもおいしかったです。

次の日はキュランダ渓谷を走るキュランダ鉄道に乗りました。百年以上の歴史を持つキュランダ鉄道は山間をゆっくりと進み、車窓からはサトウキビ畑、絶景のストーンクリーク滝など感動的な景色を見ることができました。そのあとは世界遺産の熱帯雨林で遊べる自然パークで水陸両用車に乗り、ハートの形をした葉っぱや水中を飛ぶ鳥など珍しい植物や動物を間近で観察し、良い経験をすることができました。園内にある先住民のアボリジニ文化を紹介する施設では、ブーメラン投げを体験することもできました。そして世界最長級のゴンドラロープウェイ、スカイレールに乗り、世界遺産に指定されている熱帯雨林をはじめ、ケアンズの町並みや緑豊かなケアンズの高原など、壮大な景色を楽しみました。

こうしてオーストラリアを満喫して私たちは日本へ帰ってきました。行く前は不安だらけでしたが、実際に行ってみると楽しくて楽しくて、日本のことなどほとんど忘れていた毎日でした。

オーストラリアの自然にふれ、たくさんの貴重な体験をしてきましたが、なによりステイ先の家族の人柄や考え方がとても好きでした。お風呂のドアを誤って壊したり、数々の失敗やピンチのときでも、ロベットとタナはいつでも「That's OK!!」と言ってくれました。日本ではいろんなことに細かいルールがあり、失敗すると笑われたりするなど、「ダメなこと」という意識が強いけれど、オーストラリアは違いました。「That's OK!!」と言われると安心して「もう一回やってみよう」という気持ちになります。オーストラリアの広大な自然が人をそのようにおおらかにするのかなと思いました。

オーストラリアで学んだ「That's OK!!」の精神で、これからもいろんなことにチャレンジしていきたいと思います。

研修テーマ

「みんながもっと人と交流するにはどうあるべきか？」

No.9 平和中学校 鈴木 沙彩

1 研修参加の動機

私は幼い頃から外国の人々と接する機会がありました。英語をほとんど知らない私は、知っている単語とジェスチャーを使いながら相手のことや相手の国のことを聞いたり、自分のことについていろいろ話したりしてきました。また、海外旅行をした人からも外国についての話を聞く機会がよくありました。こうして、外国人や海外の情報に接するようになり、外国の文化や人々に興味を持ち、あこがれも強くなっていきました。外国とはどのような場所なのか、今学んでいる英語はどこまで通用するのか、自分自身で行って試してみたいと強く思うようになりました。今回の研修を絶好のチャンスと思い、参加しました。

2 研修テーマについて

人と人との交流（コミュニケーション）の手段としては、言語（会話）・ジェスチャー・表情・音楽・絵・文字・メールなどが考えられます。私達中学生は、毎日英語の学習に精を出しています。また、日本の文化やその良さを伝えるために国語や社会などの学習もしています。言葉や文化の異なる者同士が、共通の言語で（場合によっては全く違う言語で）、互いの感情を表現しながら会話し、理解しあえたらどんなに素晴らしいことでしょう。

しかし最近の様子を見てみると、生の声での会話（表情を混じえた）よりもメールを利用した「文字」での交流が増えているように思います。メールは一瞬にして全世界とつながることができたり、どこでも利用できるなど良い面が

ある反面、友達同士で利用する場合、メールを打っているうちに文字が一人歩きして、考えていること以上の文章となってしまうことなどもあり、気持ちが本当に伝わっているのか、疑問に思うことがあります。それが原因でメールに関するトラブルが目立つようになってきました。『どうして携帯やパソコンばかりで人と関わろうとするのか、もう少し実際に人と話すことが必要なのではないか』と私は考えるようになってきました。今回の研修にあたり、何も知らない人たちと文字だけでなく、全身を使っての表現で交流してみようと思いこのようなテーマにしました。

3 現地での交流について

（1）ファームステイ先での交流

①長男ジャコブ

ジャコブは、自分自身の携帯電話を持っていて、よく友達とメール交換をすと言っていました。まだ小学生なのに自分自身の携帯を持っていることには驚きました。その携帯電話は、自分のお金で買ったらしく、電話をするよりもメールのほうが1¢と安いためメールをよく使うそうです。オーストラリアでの携帯電話の所持率はかなり高くなっているそうです。

また、インターネットを通して友達とゲームもしていました。毎日ゲームをしていて、いつも友達とゲームの話をしていると聞きました。日本の子どもと同じでオーストラリアの子ども達もゲームが大好きなんだと感じました。

しかし、利用の仕方が日本と違うなあと感じたところがありました。確かによくメールやゲ

ームをしているけれど、ずっと部屋にこもっているのではなく、いつもお母さんの手伝いをしたり、食事はみんなと一緒にとっていたり、家族と会話をするなど、大勢の中での生活が中心で、メールは限られた時間だけの利用という点です。

ジャコブは、いつも昼食前になると台所でお母さんと一緒に準備をしていました。食事が終わると、いつも家族と会話をしていました。

日本では、部屋にずっと居て、「ずっとゲーム!!」「ずっとメール!!」というのが大半だけれど、オーストラリアでは、日本よりも家族との会話の量が多いなあと思いました。

②長女タイラ



長女 タイラ

タイラはパソコンを使い、ケアンズやマルビンの友達とメールのやりとりをしていました。自分より年下なのにパソコンを器用に使ってメールをやりとりしていることにビックリしました。

しかし、タイラは時々パソコンを使うだけで、いつもは庭に出て友達や犬達と一緒に遊んでいました。私達も、いつも彼女がしているように裸足で庭に出てボールを使って遊んだり、日本の『だるまさんがころんだ』や『おにごっこ』を教えて一緒に走りまわりました。日本の遊びを教える時



裸足で遊んだ庭

は、知っている単語や文法と身振り手振りを使って教えたり、実際に自分達で再現したりして教えました。完全な説明はできなかつたけれど、私達の気持ちがちやんと伝わって嬉しかったで

す。また、彼女達もゆっくり、ジェスチャーを混ぜながら私達に遊びを教えてくださいました。

(2) アボリジニとの交流



アボリジニのショー

最終日にクランダ・シーニック・レールウェイで行ったクランダ村では、実際にアボリジニの人々のショーを見たり、ブーメラン投げ体験、やり投げ見学、世界最古の木管楽器 Didgeridoo の演奏を聞きました。ファームステイ先で Didgeridoo のことはいろいろ聞いていましたが、実際に演奏しているところを見るのは初めてでした。何パターンもある演奏方法のことも初めて知りました。低くて独特のいい音でした。

先住民＝アボリジニの人々は自然との共存を図るため、さまざま知恵や生活習慣を生み出していったそうです。また、文字を持たなかったアボリジニの人々は、それらを“音楽”や“ロックアート（壁画）”などで表現し、文化や伝統を継承し続けているそうです。ショーの中でも、独特のステップや音楽で喜びや怒りを表現していました。言葉以上のものが“音楽”から伝わってきました。

(3) 現地学生との交流

ファームステイが終わり、ロッジへ戻った日、私たちは、現地の学生達と一緒にウォータースライダーをしたり、池でいかだを作ってグループに分かれ勝敗を競ったり、障害物競争をしたりしました。夜には、みんなでダンスパーティーもしました。現地の学生達は、みんな元気で積極的でした。日本なら「いいや、遠慮する」と引込むところを、オーストラリアの学生達は男女一緒にみんな裸足で、汚れなど気にせず過ごしていました。また、障害物競争の時、ある一人の学生の「準備はいい？」の言葉に私は

思わず、「でもそんなに速くはできません」と言ったら、その学生は「大丈夫!!」と言ってくれたので、私も思い切って飛び出せました。雨も降っていて寒かったけれどとても楽しかったです。

夜のダンスパーティーも音楽にあわせて踊ってとても楽しかったです。英語が話せなくても、会話が上手にできなくても、一緒に楽しく交流ができて良かったです。この日は“身体と表情”で交流することができました。

4 エピソード

《カエル狩り》

ファームステイ2日目の夜、一緒にステイした友達と長女のタイラ、タイラの友達のグレイス、それからペットのレイディでカエル狩りをしました。最初はただ「ついて来て」とばかり言われてついて行きましたが、いきなり大きなカエルを見つけては、太い棒で殺し始めたので、ビックリしました。なぜ殺すのか不思議に思い、いろいろ聞いてみると、そのカエルの正体は…オーストラリアで大量発生していて、毎年オーストラリア政府が大金をかけて駆除しているカエルでした。「悪い動物だ」と彼女らは、一夜で27匹も捕まえました。

《ホストマザーと》

ホストマザーのハイディには色々なところへ連れて行ってもらいました。3日目は、チョコレート&チーズファクトリーへ行きました。私はそこで母へおみやげを買いました。ハイディに「どのコーヒーが一番美味しいの?」と聞いて、母へのお土産として選んでもらいました。また、町では何度も何度も買い物をしたおかげで、お金の仕組みや数え方にだいぶ慣れることができました!!



ハイディとジャコブ

《Didgeridoo》

私達が最終日に実際に聞いた世界最古の木管楽器 Didgeridoo。低めの不思議な音を出すこの楽器は、唇をブルブルとふるわせ音を出します。舌・声帯を使ったり、鼻で息を吸ってふいたり、いろいろな方法があり、さまざまな音やリズムが表現できるそうです。初めて知ったことがたくさんあり勉強になった1日でした。

5 まとめ

○ホストファミリーから得たこと

片言の英語や身振り手振りでしか相手に自分の言いたいことが伝わらない生活の中でしたが、“英語”を使って話をしたり、“ジェスチャー”を混ぜて自分の気持ちを伝えたりしたことで、お互いをいろいろ知ることができたり、共にいろいろなことを楽しむことができました。また、『人と話す』ということは「楽しい!!」と心から思えました。文化も習慣も全く違い、全く面識のなかった私達だったのに、3日間でも仲良くなって最終日は別れるのが本当に嫌でした。

相手に自分の言いたいことが伝わる嬉しさ、人とコミュニケーションをとって話すことの楽しさを知ることができました。



ハイディと行った滝

この3日間で“話す”ことの大切さ、“伝える”ことの大切さを感じました。完璧な英語を話せなくても、がんばってジェスチャーを混ぜたり、工夫することで相手は理解してくれるということも分かりました。

○アボリジニを通して

先住民アボリジニの人々は、文字を持たなかったのに音楽や絵で相手に自分の気持ちを伝え、そして、相手の言いたいことも理解していたなんてすごいと思いました。私達が見たショーで

は、ちゃんと楽しさや怒りなどの感情が伝わってきたので、言葉以上のものが音楽に込められていることが分かりました。感情の「凄さ」をこんなに感じたことは今までなく、衝撃でした。

○オーストラリアの携帯電話，パソコン事情

私にとっては、携帯電話の所持率の高さが意外な結果となりました。私達よりもずっと年下の小学生なのに、自分自身の携帯電話を持っていたり、インターネットを通してゲームをしたりしていました。また、パソコンを使って遠くにいる友達とメールの交換もしていました。

「ゲーム好き」なところは日本と変わりはないと思いましたが、パソコンや携帯電話の利用が長時間ではなく、生活の一部となっているという印象を受けました。日本よりオーストラリアの方がパソコンや携帯電話本来の使い方をしているなと感じました。

○研修を共にした仲間たち

最初は他の中学校ということもあって、なかなか話をするにはできませんでした。そんな中、「ちょっとの勇氣」を出して会話をしてみました。オーストラリア研修が終わる頃には、いろいろなことを話すことができるまでになり、仲の良い友達がたくさんできました。彼女（彼）らと一緒にオーストラリアへ行き、研修をしたことで一つ成長できました。また、自分を高めることもできました。

○今後に向けて

今、日本で学んでいる英語がとても役に立ったので、今後はもっともっと英語を熱心に勉強しようと思いました。人とコミュニケーションをとって共に過ごしてとても楽しかったし、学んだこともたくさんあったので、さらに英語を勉強して世界中の人と交流したいです。

また、世界の人々に日本のこと、秋田のことなど多くのことを伝えられるように学校の勉強以外のことにも興味をもち、生活していきたいと思えます。

今回のようなチャンスがあったらまた挑戦し、

少しでも相手のことが理解できるようになりたいです。

オーストラリアは、人々が優しく、広大な自然のある国です。人々の優しさは、この大自然の中から生まれてきているように思いました。



一面に広がる緑の自然

私達の住む

大仙市にも豊かな自然があります。この自然にもっともっと触れて、大きな気持ちで毎日を過ごしたいと思いました。また、この自然を守っていかなければならないとも思いました。

今回の研修に参加し、今まで気付かなかったことに気付くことができ、本当に良かったと思います。

最後に、この様な機会を与えてくれた家族や大仙市、教育委員会の皆様、添乗員さん、多くの関係者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

° *オーストラリアの大自然* °

No. 10 協和中学校 2年 天野 媛子

私達は、1月4日から12日までの9日間オーストラリア派遣事業に参加してきました。年明けすぐだったので、バタバタしているうちにその日が来て、私達はオーストラリアに向けて出発しました。

海外生活はなにもかもが初めてでしたが、特別な経験ができて良かったです。

私がこの派遣生になってオーストラリアに行きたいと思った理由は、小学3年生の時にオーストラリアの学生達と交流をした事がきっかけです。言葉はあまり通じなかったのですが、なにかしらのジェスチャーをする事で通じました。お互い住んでいる国、文化、言葉は違っていても「通じる」というのはすごいな。と思い、いつか機会があればオーストラリアに行きたいと思っていたからです。

私が「オーストラリアの大自然」をテーマにした理由は、オーストラリアの自然に興味があり、その自然のすばらしさを日本の友達に伝えたくかったからです。

☆オーストラリアの自然について調べた内容☆

1. 滝について

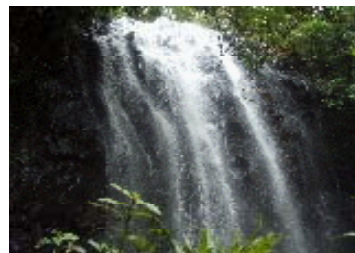
私達が実際に行った滝は、5つあります。

1つ目は Mungalli Falls です。

ここの滝を観に行った時は、ひどい雨が降っていて写真が撮れませんでした。しかし、雨の中でも迫力のある素晴らしい滝でした。

2つ目は Ellinjaa Falls です。

この滝はすぐ近くまで行ける滝で、とてもきれいな滝でした。



3つ目は Zillie Falls です。

下まで降りて観る事のできない滝でした。2年前に大きな台風が来て、滝の周りの木々がたくさん倒れたり折れたりしたのだそうです。しかし、今はそんなことを感じさせないくらいまで回復していて、滝も周りの森林もとてもきれいでした。



4つ目は Millaa Millaa Falls です。

オーストラリアのパンフレットにも載るほど有名で、とてもきれいな滝でした。



5つ目は Malanda Falls です。

ここは、一瞬「これ滝なの」と思うほど低い滝でした。そして、ここはプールのようにみんなが泳げる場所でした。泳いでいた人達はとても楽しそうでした。



2. 水について

皆さんは、オーストラリアが水不足だと言うことを知っていますか？こんなに滝があるのに「なぜ水不足になるのだろう」と私は思い、私達を案内してくれた方に聞いてみました。すると、ケアンズには滝がたくさんあるので、水不足ではないらしいのですが、都会(ブリスベン)の方では滝はありません。だから、都会は水不足で困っているらしいのです。

今、オーストラリアでは水不足解決のためにさまざまな方法を考えています。例えば、[海水の塩分をなくして普通の水にする](#)とか、[汚水を薬品できれいにして再利用する](#)などです。もう1つ考えられている方法は、とても難易度の高い方法で、[滝\(水\)がたくさんある所から 3000km も離れている水不足の地域に水道管を通して送り込む方法](#)です。どれも難しい方法ですが、今一番実現に近いのが「汚水を再利用」する事だそうです。日本ではこんな事はありえません。しかし、水は大切です。日本でも水は大切に使用したいと思いました。

3. 熱帯雨林について

Kuranda にある世界最古の熱帯雨林をスカイレールに乗って観てきました。そこでは [160 種類以上の植物](#)が観察できます。木々はとても青々していてきれいでした。

日本では、低い木が同じ種類で何本も生えています。オーストラリアの熱帯雨林に生えている木は [とても背が高く](#)、たくさんのさまざまな種類の木々がかたまって生えていました。



・スカイレールについて

- ・1年の工事期間を経て、1995年に全長7.5kmのスカイレールが完成しました。
- ・熱帯雨林保護のため、すべての支柱はヘリコプターで現場まで運ばれました。
- ・一番高い支柱は6番塔で、高さ40.5mもあります。
- ・ゴンドラの数は全部で114個です。
- ・行程のなかで一番高いのがレッドピーク駅で、545mでした。

・Kuranda (キュランダ)

キュランダ村は、スカイレールキュランダ駅より400mほど坂を上ったところにあります。鳥園、夜行性動物園、蝶園、土産店、マーケット、カフェやレストラン等、たくさんみどころがありました。

無料のシャトルバスが、毎日午前10時から午後2時まで数分おきに、スカイレールキュランダ駅とキュランダ村のあいだを運行しています。

4. グリーン島について

8日目、私達はグリーン島に行って来ました。写真のようにグリーン島の海は透明度が高く、砂は白くてとてもきれいでした。



足を海中に入れて撮った写真

日本の海では、自分の気に入った貝殻を見つけたら持って帰る事ができます。しかし、ここグリーン島では、気に入った貝殻を見つけても持ち帰る事は禁じられているのです。(オーストラリアの規則です。)

知っておくと便利です。

～豆知識～

なぜ「カンガルー」と言う名前になったのかを説明します。

昔、クック船長と言う人がオーストラリア大陸を発見し、上陸しました。するとそこには、ピョンピョンと跳ねる茶色い動物がいたのだそうです。クック船長はその動物を見てとても気に入りました。ぜひその動物の名前を知りたいと、そこに住んでいたアボリジニの人に英語で尋ねてしまいました。もちろんアボリジニの言葉と英語は全然違います。そのため、アボリジニの人は「意味が分からない」をアボリジニの言葉で「カンガルー」と、言ったのです。

それを聞いたクック船長は、その茶色い動物を「カンガルー」だと思い込み、故郷に帰って皆に伝えてしまったのだそうです。

そうしてその動物は「カンガルー」と名付けられたのです。

もしクック船長がアボリジニ語を知っていたら、今頃カンガルーは、「カンガルー」という名前ではなかったかもしれません。

～海外研修を終えて～

ホームステイは、本当に貴重な体験でした。ステイパパは69歳で、ママは64歳でした。

そして、ステイ先には子供がいなかったのも、楽しみな反面不安な部分もたくさんありました。しかし、実際に行ってみるととても優しい方々で「オーストラリアに来て本当に良かった。」と思いました。

それに、オーストラリアの自然（グリーン島やキュランダ溪谷）を巡って行く中でいろいろな気持ちが出てきて、とても感動しました。



違う中学校の友達と感動を分かち合えた事もとてもうれしくて楽しかったです。

この海外研修でたくさんのいい思い出ができました。この経験を生かして、これから将来に向けて頑張っていきたいと思いました。



オーストラリアの自然と資源の使い方

No.11 協和中学校 佐藤 由里子

1

ついに、楽しみにしていたオーストラリアへの出発の日が来ました。出発式やバスの中では、初めての海外ということで期待よりも不安の方が大きかったです。しかし、いざオーストラリアに来てみるとそんな不安は消えていました。

私は、ホームステイ先の家族の車に乗っていたとき、ついにオーストラリアに来たんだなと初めて実感しました。ホームステイ先や店などでは、全て英語で話さなければならないので、言おうとしていたこともいざ話そうとすると言葉が出てこなかったりしました。しかし、言葉が通じなくてもジェスチャーなどで通じたので感動しました。

2

私が「オーストラリアの自然と資源の使い方」をテーマにした理由は、オーストラリアは私の中で自然がたくさんある海がきれいな国というイメージがあったからです。だから、ぜひその自然を体感して、みんなに伝えたいと思いました。それに、オーストラリアは非常に水が足りない国だと聞いていたので、どのような工夫をして水などの資源を使っているのかが気になりました。そして、その工夫をこれからの私たちの生活に役立てよう思ったからです。

3

1.自然について

オーストラリアには、日本とは違う木や草などがたくさんありました。私たちが最初に泊まったマンガリーフォールズのロッジの近くには、たくさんのきれいな木や花がありました。しかし、触っただけで1ヵ月くらい火傷の状態になってしまうという危険な植物もありました。

夜になると土ボタルを見ることができ、まるで宝石のようにきれいに輝いていました。



↑ 危険な植物

今、日本では田舎でさえホタルが見られなくなってきているのに、オーストラリアではたくさんの土ボタルがとてもきれいに輝いていました。私は、きれいなホタルを私の家の近くでも見られるようにしたいと思いました。

そのために私は、身近なところから環境のためになることをしていきたいと思いました。

例えば道路のゴミについては、スーパーの通りなどにはゴミが落ちていませんでした。誰かがゴミ拾いをしたのか、それともゴミをその辺りに捨てる人がいないのかは分からなかったけれど、私の住んでいるところでは道路にゴミが落ちているのは当たり前のようにな

ってしまっています。それに、私自身もゴミを見かけても、地域の活動以外では拾おうとしませんでした。だから、これからは地球のことも考えて道路でゴミを見かけたら積極的に拾いたと思います。

Mungalli Falls や Millaa Millaa Falls などの滝も見に行きました。日本の滝と違い、山奥に行かなくても見られる滝でした。そこでは、いろんな人が泳いでいてすごく楽しそうでした。



キュランダの熱帯雨林に行くときに、キュランダ鉄道に乗りました。鉄道は、滝やサトウキビ畑が見える緑の中を走っていくので、飽きることなくきれいな景色を眺めていました。

グリーン島では、島の周りの海の色が緑色ですごくきれいでした。沖まで行かなくても、魚がたくさん見られてサンゴもきれいでした。グリーン島の海の水は日本の海の水よりしょっぱかったです。島の中も、店やプールの近くに森があつてきれいでした。



2. 動物について

ロッジで世界一大きい蛾を見て、その大きさにビックリしました。少し気持ち悪かったです。

私たちは、カモノハシを探しに行き、結局見られなかったけれど、その近くでワラビーを見ることができました。離れていたのあまりよく見られなかったけれど、人が住んでいる近くに来ることが驚きでした。それに、現地の人の話だと木登りカンガルーというのもいて、カンガルーが



木に登るのだそうです。

ステイ先の家では、犬や猫、鳥などを飼っていました。さらに農場では、バッファローを飼っていました。本物のバッファローを見るのは初めてだったので、驚きました。

キュランダの熱帯雨林では池に入って魚を採る鳥が、飛ぶために羽を広げて乾かしていました。



その他に、一回見ると幸せになって、二回見ると幸せが戻って行って、三回見ると一生幸せかお金持ちになれるという「ユリシス」という、世界で一番飛ぶのが早い蝶もいるそうです。私は、残念ながら見ることはできませんでした。

でも、コアラを抱っこして写真を撮ることができました。初めてコアラを抱っこしたので、緊張してコアラを落とさ

↓羽を乾かす鳥



ないか心配でしたが、コアラががっちり私につかまってくれたのでよかったです。それに、とてもかわいかったです。オーストラリアでもコアラと写真を撮ることができるところはあまり無いそうなので、貴重な体験ができてよかったです。

3. 水について

オーストラリアは、水が足りなくてとても水を大切にしている国だと聞いていました。そのため、シャワーがものすごく不安でした。

ロッジでは基本的に5分のシャワーでしたが、初めは慣れなくて10分くらい使ってしまいました。それに、水道から出る水はすぐそばの滝から汲んできたものなので飲むこともできませんでした。日本では水道水を飲むことが当たり前だったので、歯磨きなどもミネラルウォーターでなくてはならなくて不便でした。



去年オーストラリアに行った先輩たちが、ステイ先ではトイレはためてから流すと言っていたことも、すこし不安でした。けれども、私が行ったステイ先では、「水がたくさんあるからシャワー時間が長くても大丈夫だよ」と言っただきほっとしました。水道水もそのまま飲むことができました。私は、オーストラリアの全て家の水道水が飲めなかったり、トイレをためて流したりしているのだと思っていたので、意外でした。

オーストラリアの水の使い方には、学ぶことがたくさんありました。日本では、水の出っぱなしなどの無駄使いも多いので、オーストラリアを見習ってそういうことをなくして、地球温暖化防止にも貢献できたらいいと思います。

4

ホームステイ

私がオーストラリアに来て一番楽しみにしていたことはホームステイです。私のホームステイ先は、3人家族で犬と猫が2匹ずつとモルモットが3匹と鳥がいました。どの動物もとてもかわいかったです。

私が寝た部屋はとてもカワイイ部屋で、私にはもったいないほどでした。その部屋には絵本や、日本でいうリカちゃん人形がおいてありました。ピカチュウにぬいぐるみもあり、それにはとてもビックリしました。Wii もあって、日本のゲームは世界でもとても人気があるんだということも分かりました。



ご飯はとてもおいしくて、毎日食べたいくらいでした。でも、私はバーベキューのときの焼きバナナだけは食べられませんでした。



オーストラリアのピザにはパイナップルが入っていてビックリしましたが、とてもおいしかったです。

スパゲッティは太くてフニャフニャでした。日本と違って、オーストラリアの人はパスタを蒸してしまうのでそうなるのだそうです。でも、おいしかったです。

ホームステイ3日目に、ステイ先のお父さんに動物園に連れて行ってもらいました。そこにはトラやクマなどの動物や、ダチョウなどはじめて見る動物がたくさんいました。それに仏像のようなものがあってビックリしました。



そのあとは、ショッピングでした。値段の手頃な宝石店に行きました。そこにはキレイな宝石などがたくさんあってとても楽しかったです。



私たちは、ホームステイ最後の夜にベッドに墨をこぼしてしまいました。翌朝みんなで言おうとしたけれど言えず、帰りの車の中でかたことの英語で言ったのですが、多分伝わってないと思います。今思うと、とても申し訳ないことをしてしまったと思います。

マンガリーフォールズに着いてステイ先のお父さんと別れるとき、車の中では我慢していたのに、車を降りたら急に涙が出てきてしまいました。3日間だけしかいなかったのに、悲しくてたくさん泣いてしまいました。でも、ステイ先のお父さんやお母さんはまたいつでも来ていいよと言ってくれたのでとても嬉しかったです。とても楽しいホームステイでした。私は、またオーストラリアに行く目的が出来たので、いつになるかわかりませんが、機会があればまたオーストラリアに、そしてステイ先に行きたいです。

海外研修を終えて

私はこの海外研修というチャンスにめぐまれて、言葉が通じなくても伝えようとすればジェスチャーなどでも伝えることができるということ学びました。楽しい体験や、ステイ先の家族と別れる悲しい体験などをたくさんしてきて、一生の思い出になるような海外研修でした。この体験を大切に、これからの人生に役立つようにしていきたいと思いました。

AUSTRALIAの生活と自然

No. 12 協和中学校 沢口 佳那

私は今回初の海外派遣が決まって期待と不安でいっぱいでした。決まった時は、まだ先のことと思っていました。でも時が進むのは早く、あっという間にオーストラリアに行く日が来たのです。

私が選んだテーマは、「オーストラリアの生活と自然」です。このテーマを選んだ理由は、オーストラリアといえば大自然！この大自然で暮らす人達の生活はどのようなのか。そこを、派遣事業で学んでこようと思ったからです。

入国審査も終わり空港を出た瞬間、オーストラリアは日本と違って暑く、すぐに汗をかきました。しかしポカポカしていて私には最高の場所でした。バスに乗ってまず注意されたのは、バスの中ではシートベルトをすることと飲食はしないことです。

私たちが宿泊するロッジにはバスで2時間半くらいかかりました。最終的に寝たのは朝の4時頃でした。

1、自然について。

2日目は、**MUNGALLI FALLS**の近くにある熱帯雨林を見に行きました。その日はあいにくの雨で景色をはっきりと見ることはできませんでしたが、霧がかかっているのもまた綺麗でした。その後に滝を見に行きました。その頃にはもうどしゃぶりで、服がぬれてしまって大変でした。ロッジに帰ってシャワーを浴びた後、今度はカモノハシ探索にいきました。残念ながらカモノハシを見ることはできませんでしたが、亀を見られたので良かったです。



↑ロッジの近くの滝。

食事のあとは、土ボタルを見に行きました。道のりは大変でしたが、目的地にたどり着くと、滝の音が聞こえました。そして、そっと草の影を覗いてみると、小さい土ボタルがたくさん光っていて綺麗でした。

2日目でこんなにたくさんの自然を見ることができて、うれしかったです。特に感動的だったのは、滝です。オーストラリアに行く前はこんなに滝があるなんて考えもしませんでした。しかし、オーストラリアには数多くの滝があることに驚き、感動しました。日本にも滝はたくさんあります。ですが、こんなに近くで滝を見たことがなかったので、特別な体験をしたような気分でした。

滝の近くには熱帯雨林があり、綺麗な植物がたくさんありました。その分、危険な植物もあって興味深いものばかりでした。

8日目に行った、グレート・バリア・リーフではグリーン島に行きました。そこは青い海ではなく、少し緑のかかった海ですごく綺麗でした。少し泳ぐとたくさん魚がいました。

日本では見ることのできない景色を見ることができて、嬉しかったです



↑キュランダ鉄道

最終日は、キュランダ鉄道に乗って世界最古の熱帯雨林地帯に行きました。到着後は、水陸両用車に乗って熱帯雨林を散策しました。そこにも危険な植物がたくさんあって驚きました。お昼を食べる前に、クロコダイルと一緒に記念写真を撮りました。午後は、オーストラリアの先住民のアボリジニのダンスを見たり、アボリジニのブーメラン投げを体験しました。すごく貴重な経験で、良い思い出になりました。

2、生活について PART1

私は、オーストラリアの生活についても色々学んできました。オーストラリアでは数年前から後部座席のシートベルト着用が義務化されています。日本は最近始まったばかりですが、こちらではもう定着していて、進んでいるなと思いました。

ロッジに泊まる前に、一番最初に注意されたのは水の事です。1人のシャワーの時間は**5分**と現地の日本人ガイドさんに言われて、そんな短時間でできるのかと思いました。でも、慣れると手際よくできてホッとしました。

3ホームステイについて



* ホームステイ1日目 *

ロッジで朝食を食べたあとすぐ、ホストファミリーとの面会式がありました。ホストファミリーは、私たちを含めこれまでに4, 5組を迎えているベテラン、第一印象は、すごくやさしそうなお母さんとお父さんだなと思いました。家族は両親と2人の兄弟で、ペットは犬2匹、猫2匹、アヒルとニワトリがたくさんいました。

↑ホームステイ先の近くにある滝

私たち3人の泊まる部屋は、とてもかわいいピンクのお部屋でした。一段落したら、家で育てている動物と植物の説明をしてくれました。私たちは、毎朝アヒルとニワトリに朝ごはんをあげる仕事と、ニワトリの卵の収穫を、お父さんと一緒にやりました。

* ホームステイ2日目 *

二日目は、お父さんとお兄さんが庭の木を切る作業の手伝いをしました。木を切るのは主にお兄さんがやっていました。日本の中学生や高校生はどうだろうか？と考えさせられました。

午後は、お兄さんとお父さんと私たちの5人でゲームをして遊びました。

夕食を食べ終わったあと、日本のお土産を渡しました。はしと、お守りと、せんべいを渡し、家族一人一人の名前を漢字で書きました。すごく喜んでくれて嬉しかったです。

* ホームステイ三日目 *

三日目は、ホストファミリーと一緒に買い物と釣りに行きました。初めての釣りで難しかったけれど、ホストファミリーが教えてくれたのでうまくできました。

何回か続けているとやっと魚がつかれましたが、稚魚だったので海に戻しました。結局その日は一匹も釣れずに、夕食はオージービーフでした。おいしかったです。

* ホームステイ最終日 *

最終日は、朝9時までロッジに集合のため、家族と過ごす時間が少なくて残念でした。3泊4日は長いようで短い時間でした。帰るときは、本当の家族ができたようで、別れたくなかったです。

私は、この4日間で体験したオーストラリアの生活を今後役に立てたいと思いました。

* ホームステイの感想 *

ホームステイで驚いたのは、子供たちが家の手伝いを、言われなくてもやる所でした。

それと、家事はすべてお父さんがやっていたことにも驚きました。

4、現地中学生との交流

6日目の日程は現地中学生との交流でした。これで同い年?!という人もいてビックリしました。

現地中学生と**いかだ作り**をしました。現地の中学生たちはスムーズにいかだを作り上げたので、驚きました。

夜は、べつの中中学生や小学生と一緒に、オーストラリアのダンスを踊りました。結構ハードなダンスが多くて汗をたくさんかきました。

現地中学生とたくさん話して、記念写真もたくさん撮れたので、いい思い出になりました。

数学が好きだという人が多くて、ビックリしました。

5、まとめ・感想

オーストラリアの自然や生活に触れて学んだことはたくさんあります。

1、たくさんの植物と動物がいて、空気が綺麗だったこと。見るものすべてが、日本とは違うすばらしいものでした。**ロッジの近くに咲いていた花→**



2、生活では、子供たちが進んで家事の手伝いをしていて、自分自身のことを考えさせられました。

3、世界遺産を2つ見てきました。ひとつは、グレートバリアリーフのサンゴの海。そこは透き通った緑色の海で、感動しました。2つ目は、世界最古の熱帯雨林キュ

ランダ。ここでは見ると幸せになれるというユリシスを見ることはできませんでしたが、世界最古の熱帯雨林をこの目で見て、とてもいい勉強になったことが嬉しかったです。

私の将来の夢は、このオーストラリア研修で変わりました。現地のガイドをしていた尚子さんを見てかっこいいと思ったからです。将来オーストラリアのことをもっと勉強して、私もオーストラリアのガイドになりたいと思うようになりました。

☆☆オーストラリアの自然☆☆

No.13 協和中学校 2年 鈴木志恵里
私たちは、1月4日から12日までオーストラリアに行ってきました。

わたしは、小学校のときからオーストラリアに行きたいと思っていました。だから、行けることが決まり、とても嬉しかったです。



わたしが、《オーストラリアの自然》というテーマにした理由は、熱帯雨林にとっても興味があり、オーストラリアにも熱帯雨林があると知ったからです。

はじめに泊まったのは、『MUNGLI FALLS』という滝があるロッジです。ここに泊まったときは、スタッフの人が日本語を話せたので、オーストラリアに来た！という気は、ほとんどしませんでした。

ロッジ周辺の熱帯雨林には、見たことの無い木や花などがたくさんありました。大きい木もたくさんあり、バナナの木を見つけたときは、とてもびっくりしました。

* AUSTRALIA の自然 *

☆熱帯雨林☆

オーストラリアには、世界最古の熱帯雨林(Rainforest)があります。熱帯雨林は湿気が高く、うっそうとした巨木に空を覆われ、太陽の光が地面に届きにくいのです。また、熱帯雨林では、ほかの植物に寄生して生き延びる植物や光合成に頼らない植物など、いろいろな植物を見ることができました。

特に印象に残っているのが、恐竜がいた時代からある木です。テレビなどでは見たことがありました。でも、今でも残っているとは知らなかったので、とてもびっくりしました。触ると、火傷のようになるという植物もあ



りました。小さい植物なのに、人によっては半年以上も症状が消えないというので、とてもおどろきました。見た目は、その辺りにある葉っぱと変わらないので、恐いなあとおもいました。

この熱帯雨林は、世界遺産に登録されています。そして、自然環境保存法や自然公園法などによって保護されているそうです。

だから、熱帯雨林を見たときにはまわりにゴミが少しも落ちていませんでした。みんなで気を付けて環境を守って行くことが大切だとおもいました。



☆ GREEN ISLAND ☆

グリーン島 (Green Island) はとてもきれいな海でした。

ボートに乗り、クマノミやウミガメ、ほかにたくさんの魚を見ました。サンゴもとてもきれいでした。雨が降っていたので、あまり泳げなっかが残念でしたが、きれいな海やたくさんの魚を見ることができたのでよかったです。



☆水☆

オーストラリアは、水不足だと聞いていました。シャワーは5分以内で終わらせるようにいわれていたのも、とても不安でした。でも、ちゃんと終わらせることができたのでよかったです。

熱帯雨林に行ったときは、すごい雨でした。カップを着ていても服がビショビショになりました。あんなにたくさん雨が降るのに、水不足になるのはどうしてなのかとても不思議に思いました。

今は、オーストラリアの水不足も改善してきたそうなので、よかったと思います。

☆動物☆

ロッジの近くの川で、カモノハシを探しました。けっこう長い時間探していたけれど、見つけることはできませんでした。たくさんいるものだと思っていたのでとても残念でした。

ロッジの近くでは、たくさんの動物を見ました。ワラビーやカンガルーが見られると思っていなかったのも、見ることができた時はとてもうれしかったです。でもわたしには、カンガルーとワラビーの違いがぜんぜんわかりませんでした。

コアラは、見るだけでなく、だっこして写真を撮りました。わたしが思っていたよ

りも大きく、とてもかわいかったです。コアラを見られるとは思っていなかったので感激しました。コアラは、1日に触れてもいい時間が決まっています。州によっては、抱いて写真を撮ることができないところもあるそうです。



ワニもつかみました。小さくても重いワニでした。背中はとてもかたくて岩みたいな触り心地でした。怖かったのですが、わたしは爬虫類が大好きなので、とてもいい思い出になりました。

熱帯雨林には、野生のトカゲがいました。けっこう大きくて、よく木の根元にすわっていました。あまり目立たないので、ガイドの方に教えてもらわないとわからないくらいでした。

* AUSTRALIA の生活 *

☆ファームステイで学んだこと☆

3日目からは、ファームステイでした。知らない人の家に泊まるのでとても緊張しました。でも、ステイ先のお母さんはとても優しい人で、フレンドリーだったのですぐに溶け込むことができました。

1日目は、観光をしました。ロッジからステイ先に向かうまで、いろいろなところに連れて行ってもらいました。遠くまで見渡せる場所や滝などです。ショッピングもしました。お家の近くの商店街です。スーパーやトイショップなど、たくさんの店がありました。建物がとてもかわいかったです。

2日目の午前中は家の近くにある川で泳ぎました。とても深い川でした。

午後からは、いろいろな店に行きました。とても大きな店でした。そこで、たくさんの買い物をしました。

夜には、たくさんのカエルを殺しました。木の棒で、あちこちにいるカエルをたたいて殺しました。そのカエルは毒のあるカエルで、そのカエルを動物が食べると死んでしまうから殺すそうです。その日は30匹近くいました。



夕食は、ステーキやチキン、グラタン、サラダでした。量がとても多くてびっくりしました。

3日目は、朝からショッピングです。お土産屋さんに行ってたくさん買い物をしま

した。オーストラリアの建物は、みんな可愛かったです。その後、みんなでピクニック



をしました。大きな湖のほとりのベンチで昼食を食べました。そのときに食べたマンゴーがとても美味しかったです。でも、日本とは比べ物にならないくらい安く買えました。1個だいたい300円くらいです。わたしは、ステイ中毎日のようにマンゴーを食べることができて幸せでした。その日の夜に、キャンプファイヤーをしました。最後の夜にステイ先の

家族のみんなと、とてもいい思い出ができました。

わたしは、ファームステイ中におどろいたことがありました。こどもたちがみんな裸足で歩いていたことです。外を歩くときや、遊ぶときなどいつも裸足でした。買い物に行っても裸足の人をよく見かけました。おとなでも、裸足で歩いている人がたくさん居てとてもおどろきました。大きなスーパーマーケットに行っても裸足で買い物している人がいたし、その姿を見て誰も不思議そうにしていなかったの、オーストラリアでは、当たり前のことなのかなとおもいました。

ファームステイでは、ステイ先の家族にたくさんお世話になりました。家族は、みんな優しくて毎日とても楽しかったです。とてもいい思い出になりました。

* 研修を終えて *

オーストラリアの自然は、たくさんの人たちによって守られていると感じました。熱帯雨林は世界遺産に登録されていて、入る時の約束があったし、コアラの労働時間も決められていました。ほかにもグレートバリアリーフの物は持ち出さないなど、本当にたくさん決めがありました。日本の自然もオーストラリアのようにして守っていったらいいとおもいました。

今回、私は大きなチャンスをもたらったと思います。このチャンスをムダにしないように、これからの生活に役立てていきたいです。

オーストラリア海外派遣に参加して

～我々の食生活をよりよいものにするには何をすべきか?～

No.14 中仙中学校 2年 熊澤嘉宏

1月4~5日の様子

ついに待ちわびていた海外派遣の日がやってきました。オーストラリアへの期待に胸を膨らませている反面、結団式の日までほかの派遣生とあまり会話が出来なかったせいか、少し不安もありました。しかし、その不安は時が進むに連れ次第に薄れていき、いつの間にか男子全員で仲良く話せるようになっていました。

飛行機がケアンズ空港に着陸したのは午前0時35分。慣れない深夜の移動で頭が混乱しそうになりましたが、何とか指示通りに行動することが出来ました。その後、バスでマンガリフォールズのロッジへ。着いたときはすでに午前3時を回っていました。くたくただったので、シャワーを浴びてすぐに寝てしまいました。

朝、目を覚ますと朝食の時間でした。オーストラリアでの食事はこれが初めてなので、どんなのが出てくるのかな・・・と思いながらレストランまで行きました。

レストランの食事はバイキング形式でした。

朝からいきなりバイキング!??と思いつつ、早速盛り付けた料理を口にしてみました。予想外に日本の料理と変わったところはありませんでしたが、スパゲッティは日本のものよりも少し酸味が強かったです(写真1)。



[写真1]

食事を済ませ、ロッジに戻って少し休憩。他の男子と各学校の話などをしました。そうしているうちに時刻は午前11時。少し早い昼食の時間になりました。

昼食はハンバーガー。



[写真2]

肉、野菜などの具材はまたもやバイキング形式。自分の好きな具材をパンに挟んで食べる、といった具合です。しかし、自分の盛り方が悪かったせいか、少し食べづらかったです(写真2)。

昼食後は熱帯雨林を散策。この地方固有の動植物を探しました。すると散策中に突然、分厚い雲が空を覆い、いきなり土砂降りになりました。日本では、滅多に見られない光景でした。オーストラリアの北部、それも今は雨期なので仕方がない話なのですが。みんなロッジに帰ってきた時にはずぶぬれでした。かなり派手に濡れたので、乾かすのに相当苦労しました。

その後は、カモノハシを探索しましたが、いなかったので夕食を食べました。

例によってバイキング形式で主食はミートソースのスパゲッティ。ミートソースは日本のものに比べ、肉が多めでした。食後にはデザートとしてアイスクリームもいただきました(写真3)。



[写真3]

6日~8日ファームステイの様子

待ちに待ったファームステイです。朝ご飯を食べた後に、ファームステイの家族と面会しました。これからお世話になる家族(カーメルさん、ボブさん)への挨拶を済ませた後、車に乗って家まで向かいました。途中で滝を見たり、丘の上から景色を眺めたりしました。

家に到着すると、それはまさに豪邸。家自体はもちろん素晴らしく、プールやビリヤード台があり、キャラバンカーも所持してとても羨ましく思いました。

夏真っ盛りですごく暑かったので、図々しくも、そこで早速プールに入れてもらおうと思い、英語でお願いをしました。

"Can we use pool?"

"Sure."

会話は少し苦手なので、合っているかどうか不安でしたが、どうやらちゃんと伝わっており、プールに入れさせてもらえるようでした。プールに入ることができたのはもちろんですが、自分の話す英語が通じたのはとても嬉しかったです。

プールから上がったあとは昼食を食べました。ロッジで食べたのと同じ、ハンバーガーでした。ハンバーグは、家畜の肉牛の肉を使用して作ったと言っていました。とても美味しかったです。

昼食を御馳走になった後には、農家の仕事を手伝いました。庭が広く、家畜もたくさんいたので、いろいろ大変でしたが、最後までやり通すことができました。中でも、ニワトリの卵は、明日の朝食になるという…

その夜は、カーメルさんと一緒にトランプなどのカードゲームや、ボードゲームなどもやりました。トランプでは「ババ抜き」をやりました。ルールが簡単で、意外に奥が深いのが世界で愛されている理由なんだなと思いました。

…次の日。案の定、朝食には目玉焼きがありました。美味しかったです。昨日と同様、農場の仕事を手伝ったりして、家族との絆をどんどん深めていくうちに、あっという間に一日が過ぎました。

ファームステイ3日目の昼食は日本から持ってきたソーメンを僕たちが調理しました(写真4)。

それを家族へ振舞うと、家族は

"Oh! It's yummy,very yummy. You're very good cook!!"

と言ってくれて、とても嬉しかったです。



[写真4]

9日~11日の様子 現地学生との交流と体験

次の日の朝…楽しかったファームステイの日々は終わりを告げ、ロッジに戻らなければならなくなりました。お世話になった家族には、感謝の気持ちを伝えて別れました。

その後、ウォータースライダーをやりました。見た目よりも断然迫力があって、とても面白かったです。

昼食を食べたあとは、現地の学生と交流しました。いかだ造り、障害物競走など、様々な面で協力しました。そして一旦休憩・食事後に再び交流。

夕飯後はダンスパーティーをしました。オーストラリアの踊りをたくさん教えてもらいました。途中で日本人からも踊りを、ということで「ドンパン節」を踊ることになりました。ドンパン節は中仙発祥なので、僕が先頭に立って踊ることになりました。すると、オーストラリアの人々は飲み込みが早く、すぐに踊りを覚えてしまいました。

日本の踊りは外国人に評判が良い、ということをよく耳にしますが、どうやら本当のようでした。踊りが終わると周りの雰囲気は最高潮。みんなの前で踊るのは少し緊張したけれど、とても良い経験をしたと思います。

次の日は、世界遺産グレートバリアリーフに浮かぶ珊瑚礁の島、グリーン島へ行ってきました(写真5)。



あいにくグリーン島は雨が降っており、その魅力を存分に満喫することは難しかったですが、広大な海に広がる無数の珊瑚礁は、見る者の心を引きつける力があるような気がしました。

[写真5]

グリーン島滞在を終えると、ホテルコロニアルクラブリゾートまでバスで移動。ホテルはものすごく広かったので、危うく迷子になるところでした。

部屋に着いてから約1時間後、夕食を食べました。バイキングの他、シェフが配膳する料理もあり、かなり豪華な食事でした。

部屋に戻って休憩。楽しい旅も残りわずかと思うと少し名残惜しい気持ちになりました。

8日目。飛行機やバスの移動を考えないものとするれば、最終日です。

キュランダ観光に行きました。80分間キュランダ鉄道に乗りました。車窓からは爽やかな風が吹き込んでいました。

目的地に到着すると、水陸両用車に乗りました(写真6)。初めて乗ったのでとても面白かったです。



[写真6]

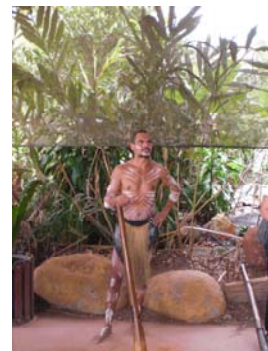
外はいつの間にか暗くなっていて、買い物の時間となりました。ナイトマーケットでは、オーストラリアの服を購入しました(写真7)。僕は黒が好きなのでとても気に入っています。世界最古の木管楽器と言われる「ディジュリドゥ」も販売していました(写真8)。



[写真7]

ディジュリドゥ→
を持つアボリジニ

← Tシャツの模様



[写真8]

その後ケアンズ空港に着いて、余ったオーストラリアドルを換金しました。約15,000円分のお金が余ったので、「もう少し買えば良かったかな…」と思いました。5ドル札と硬貨は記念にとっておくことにしました(写真9)。

おみやげを買わなかったので、余った硬貨をおみやげとして友達にあげました。特に50セントの硬貨は十角形なので、珍しそうにしていました。

機会があれば、また近いうちにオーストラリアに行きたいと思いました。



[写真9]

まとめ : オーストラリア滞在中の食事は、ほとんどがバイキング形式でした。自分の好きな食べ物を好きなだけ食べられるので、注意しないと太ってしまったり、体調が悪くなったりする恐れがあります。その点、日本の料理はバランスが良く、種類も豊富なので良いと思います。カロリーも、平均して言えばオーストラリアの方が若干高めです。しかし、オーストラリアは肉ばかりと思っていたら意外に野菜が豊富で、彩りが綺麗でした(写真3のスパゲッティなど)。食欲を刺激するという点では、色が少ないのと、多いのでは、だいぶ違うと思います。日本の料理も決して彩りは少なくありませんが、このようなところからも、食生活は学び直せるのではないかと思いました。

オーストラリアの自然と人と

No.1 5 太田中学校 鈴木 千絵美

I はじめに

私はついに行ってきました。期待と不安を胸に、待ちに待った海外派遣でした。初めての海外ということに緊張していましたが、意外にも言葉を越えた部分で、気持ちが伝わる場所があり楽しかったです。一方で、天候が悪く雨が降り続いたりして移動が大変だった時もありました。

今回の海外派遣では、テーマについて調べる研修的などころもありましたが、初めての海外ということで、思う存分楽しんでできました。



II テーマ設定の理由

私がオーストラリアに行きたくてぜひ調べてみたいと思ったことは、「今ある自然を残していくためにはどうすべきか？」ということでした。オーストラリアには雄大な自然がたくさん残っています。実際に訪れて、改めてそれがよく分かりました。その自然をどのようにして残しているのか疑問に思ったので、テーマにしました。そして、そのことを大仙や日本の自然を残していくために生かすことができなにかと考えました。



III 調べた内容

(1) スケールの違う自然の大きさ

1つ目はオーストラリアと日本の自然の違いです。これは、とても明らかでした。私たちはケアンズから郊外の方へと移動したのですが、どこまでも野原が広がっていて木がとても多く、その広く大きな自然の中に多くの牛が放牧されていました。また熱帯雨林の中を歩いた時も、日本では見られない生物がいたり、高く大きな木が生い茂っていました。行く前も自然のスケールが違うだろうとは思っていましたが、行った後は、それが一番の違いであることを実感しました。



(2) 自然と人の関わり

2つ目は自然と人の関わり方です。オーストラリアでは自然に関わる体験がたくさんできました。

まずは、水についてです。シャワーは5～10分程度に制限され、飲み水もためている所がありました。そこで暮らしている人がどんなに水を大切にしているか、感じとることができました。ケアンズとその周辺は比較的水が多い地域です。雨期は特によく雨が降るそうです。そのことは、滝がたくさんあることからわかります。そのケアンズでもこんなに水を大切にしていたので他の地域ではどうしているのだろうと思いました。シドニー周辺では特に水不足が深刻で、以前パイプラインを作る計画があったのですが、距離的に難しいために今も実現できていないと聞きました。シャワーを短時間で終わらせるなどして、水不足を極力解消しようとしている所がすごいと思うとともに、こんなに気を配らなくてはいけなくて大変だと思いました。日本では、水を蛇口から出して飲んだり、浴槽に溜めたりすることが当たり前ですが、オーストラリアに来て、それは大変恵まれたことだということが分かりました。



写真の滝はミラミラフォールという、ファームステイに行く途中で立ち寄った滝です。水しぶきがすぐ近くまでとんできて、自然のシャワーが涼しかったです。



オーストラリアにはたくさんの滝や木々がありましたが、木々は切らず自然のままに残し観光の対象としているところは、自然と人との関わりを重視

することにつながっていると感じました。また自然だけではなく、その中で暮らす動物との関わりも大切にされています。道路脇には「動物注意」の標識が数多く立っており、例えば、野生の鳥が人間の気配に驚きもせずにそばを通っていきます。宿泊先のホテルの廊下にはカエルが何匹もいました。危険動物として本に多く出ている毒蛇にも森の中で遭遇しました。

動物も植物も明るくて派手な色が多かったです。カエルは日本より色鮮やかな黄緑できれいでした。青い色のトンボや緑色の蝶々もいました。『見ると幸せになる』と言われている青い蝶々も見ることができました。花も赤や青などが中心で、こうした美しい光景や様々な体験を通して、日本はもっと自然や資源

を大事にしなければと思いました。自然を守るために私たち一人一人ができることは少なくないはずです。例えば、水を使わないときはしっかり蛇口をしめるとか、むやみに木を折ったり切ったりしないとか……。今ある自然を残していくために、もっと私たち自身が身の周りの自然について意識を高めていくことが必要だと思いました。

IV エピソード

(1) 雨の熱帯雨林を散策とアボリジニの人たちとの交流

マンガリーフォールズでは滝を見たり、熱帯雨林散策をしたり、土ボタルを見たりしました。特に楽しかったのは、現地の人たちと一緒に踊ったことです。踊りの披露をしあい、私たちは「ドンパン節」を踊りました。みんなで踊って楽しかったです。



グリーン島というきれいな島では、あいにくの雨でしたが、買い物がたくさん出来ました。

また最終日にキュランダ溪谷にいったときは、「世界の車窓から」という番組で紹介された列車に乗りました。その列車から見たバロン滝は、雨が降らないと枯れてしまうそうです。また、先住民アボリジニのダンスを見たり、ブーメラン投げの実演を見たりしました。ブーメランは鳥を狩る時に使うそうです。やり投げも見せてもらいました。やり投げはカンガルーを狩る時に使うそうです。水陸両用車にも乗りました。そのとき、バナナは果物ではなくハーブの一種だということを説明され驚きました。バナナは何度幹を切っても、根が残っているとそこから何回でも生えてきて実がなるそうです。一家に一本あると便利だと言っていました。そして、ロープウェイに乗って世界遺産の熱帯雨林を見学しました。ロープウェイからの景色は、日本と違い様々な種類の樹が共生していました。樹が高すぎて、上からは地面が見えませんでした。森には底なし沼もたくさんあるそうです。

(2) 暖かいファミリーに囲まれて

本当に楽しいことばかりでしたが、この9日間で1番思い出深く、印象に残っているのが4日間の「ホームステイ」です。最初は、英語で話さなくてはならないということに正直本当に自信が無く心配で、伝わらなかつたらどうしようと不安がいっぱいでした。しかし、ステイ先に行ってみると温かく迎えてくれました。そのおかげで、心配していた英語の方もあまり気にすること無く過ごせました。



ステイ先のご夫婦のことを「パパ」「ママ」と呼び、3時に一緒にアフタヌーンティーを飲んだりと本当の家族のようでした。とても楽しい時間だったのですが、1つ驚いたことがありました。それは最終日の夜「ゴキブリ」がでたことでした。3回も連続で間近で、しかも「初めて」見たので、本当に驚いて悲鳴をあげてしまいました。その3匹のゴキブリたちはホストマザーが丁寧に処理してくれ、私たちに（主に私に）「Don't worry.」（心配いらぬわ）と、優しく話しかけてくれたことが印象深く、感謝しています。ホームステイ先ではほかにも驚くことがありました。室内プールがあったりファームが機械化されていたり、特にミルクを採るときは、牛にホースのような機械をつないで絞っていました。その隣には順番を待つ牛が何十頭もならんでいました。ステイ先では新しい発見と共に、人との関わりの大切さを再確認できた4日間でした。



V 海外研修を終えて

このように、9日間の海外派遣を通して、私は自分のテーマにしていた自然に触れる機会をもつことがたくさんできました。また、言葉の違いを越えて、ホームステイ先のパパ、ママをはじめ、様々な人と気持ちを通じ合わせる事ができました。行く前は「英語を話さなければ」と、言葉の心配をしていましたが、そんな心配は無用だということがわかりました。これから先、今回の体験を決して忘れないように過ごして、将来につなげられれば良いなと思っています。また、今回見つけたオーストラリアの良さを、私自身見習いながら、他の人にも伝えたいと思います。例えば、オーストラリアの人達は日本人より積極的で温かく優しくかったです。また、大きな森の中に、様々な植物や動物が共存しているところなど、オーストラリアの自然の豊かさに感動しました。



一方、桜の花や四季のある所など、日本の良さも世界中に伝えたいです。

今回はすべてがとても心に残る旅行でした。

オーストラリアでお世話になったパパやママ、添乗員の加藤さんや高橋さん、そして、オーストラリアに行かせてくれた父と母にとっても感謝しています。



オーストラリア体験記

No. 1 6 太田中学校 鉄谷 貴信

I はじめに

僕にとってオーストラリアは遠い憧れの国でしかありませんでした。思いつくのはコアラやカモノハシなど、日本には生息していない珍しい動物、日本とは違う亜熱帯の気候ということくらいでした。しかし今回、このような形で中学2年生の今、訪れることができ、とてもうれしく思います。



また、今回一番期待していたのは、オーストラリア特有の生物を見たり、たくさんの人とふれ合うことでした。期待していたとおりにたくさん珍しい動物をみたり、いろんな人とふれあうことができました。

II テーマ設定の理由

僕は『休日の過ごし方とはどうあるべきか』というテーマを設定しました。設定理由は、僕は休日に宿題をしたり、好きな音楽を聴いたりして過ごしますが、オーストラリアの中学生は休日をどのように過ごしているのだろう、と思ったからです。



III 調べた内容

(1) 教育制度について

オーストラリアの義務教育期間は Year 1 ~ Year10 (6歳から15歳まで)で、日本の小学校に相当するのが Year1 ~ Year 6、中等教育(日本の中学・高校)では、タスマニア州を除き、一貫教育が採用され前期の Year 7 ~ Year 10、後期の Year 11 ~ Year 12に分かれますが、前期までが義務教育で、後期は大学や高等職業専門学校(TAFE)への入学準備期間となり義務教育が終了してもそのまま後期に就学する生徒が多いそうです。

(2) 遠隔地教育について

広大な面積を持つオーストラリアでは、学校に通えない遠隔地に住んでいる学生を対象に、州都に通信制学校を設けているほか、遠隔地教育センターを設置している州もあります。その他、生徒が一定の場所に集まって教師と通信しながら授業を行う放送学校、インターネットなどを活用した通信教育なども行われていることも知りました。こうしたことは事前学習会でいただいた資料で調べることができました。

(3) 休日の過ごし方について

オーストラリアの中学校は日本の中学校よりも宿題の量が少ないようです。1週間のうち宿題のない日がほとんどということでした。また、休日はほとんどの部活動も休みです。そして普段から皿洗いや料理の手伝いなどをしていようです。余暇の過ごし方は、友達とスポーツをしたりゲームをしたりなどいろいろです。余暇の過ごし方は僕たちとそんなに変わらないようでした。



ただ、オーストラリアの中学生は家族に、学校の様子や学校で起きた出来事を話したり、トランプなどで遊んだりして、家族の時間をとても大切にしているように感じました。日本の中学生は家族と話すことも少なく、とても家族との時間を大切にしているようには思えません。休日には家族ともっと触れ合い、家族との時間を大切にするべきだと思いました。僕は最近、友達を優先しがちで、家族と過ごす時間が少ないので、僕自身もオーストラリアの中学生のように家族との時間を大切にしたいと思います。

IV エピソード

(1) マンガリーのロッジについて

2日目と6日目はマンガリーのロッジに宿泊しました。そこには日本語を話す日本人スタッフがたくさんいました。ロッジの周りには、野生のカンガルーがたくさんいました。カンガルーが互いにじゃれ合っている様子を見て、日本では見ることでできない光景なので、とても驚きました。2日目は、昼食を食べた後に、熱帯雨林散策を体験しました。しかし、急に大雨が降ってきました。その中でマンガリー滝を見に行きました。その滝の水がマンガリー地方の生活用水になっているほど、水量が多い滝です。熱帯雨林散策を体験して思ったことは、日本よりも毒を持った植物が多く、とても危険だということでした。



6日目は、午前中にウォータースライダーを体験しました。僕は初体験で最初は怖かったのですが、やってみると意外にも楽しかったので8回も体験させてもらいました。それから、昼食のハンバーガーを食べました。自分でパイナップルなどをはさんで作るバイキングスタイルでした。また地元の中学生と浮き輪と棒をロープでつないで筏をつくって競争しました。僕たちの班はあまり速くなかったけれど、最後の片付けで優勝しました。施設の中では障害物競走をしました。障害物競走の最高記録は1分16秒だったので記録更新を

狙いましたが、結果は2分30秒台でした。夕食は現地の中学生と一緒にバーベキューを食しました。肉は脂身が少なく、ヘルシーでした。その後は全員でダンスを踊りました。そこで、ドンパン節を披露しました。地元の人も一緒に踊って、楽しい時間は瞬く間に過ぎていきました。



(1) ホームステイでの出来事について

僕はカーメルさんとボブさんの2人家族のところでホームステイをしました。ロッジからホストファミリーの家に行く間に滝を見に寄ったり、国立公園に行ったりしました。ホストファミリーの家に着いたら、家庭用プールで泳ぎました。プールは結構深くて、びっくりしました。プールの後はみんなで卓球をしました。みんな卓球が強かったです。卓球をした後は、ホストファミリーの庭に花を植える手伝いをしました。夕食後には、マンゴーアイスを食べました。マンゴーは初めてでしたが、とても甘くておいしかったです。ホストマザーとトランプで、ばば抜きをしました。



ホームステイ2日目は、朝食から夕食までみんなと卓球をしたり、猫と遊んだり、キャッチボールをしたりしました。そして『B

i g W』というスーパーセンターに買い物に行きました。そこで、20分位の自由時間を与えられて、僕はTシャツを買いました。オーストラリアに来て初めての買い物だったので、店員と英語でやりとりするのに結構緊張しました。

ホームステイ3日目も、朝食後プールで泳ぎました。昼食は、おみやげとして自分たちが持っていったそうめんをご馳走しました。僕たちがゆでたそうめんを『おいしい』と言って食べてくれたので、うれしかったです。その後、ホストファミリーの友達でマンゴー農家の家に行きました。そこで、マンゴー狩りの体験をしました。マンゴーを取った後に、地面に落とさないようにかごの中に入れるのがとても大変でした。マンゴー畑の近くで、バナナの木やパッションフルーツの木などを見ました。どの木も自分の背丈よりも大きくてびっくりしました。その後は、パッションフルーツや蜂蜜を食べました。パッションフルーツは種がカリカリしていておいしかったです。家に帰って夕食を食べて

から、みんなでビリヤードをしました。ビリヤードは初体験だったけれど、ボールを落とすことが出来て楽しかったです。

V 海外研修を終えて

海外研修を終えて、思ったことは4つあります。

1つ目は、予想以上に日本車が走っているのに驚いたことです。例えば、トヨタやホンダ、日産、三菱、マツダの車です。日本車はここでも人気があるんだなあ実感しました。僕のホストファミリーの家の車も日本車でした。

2つ目は、現地の中学生と交流してわかったことですが、オーストラリアの中学生は、日本の中学生と違い、引っ込み思案の人が少なく、何事にも積極的な人が多いことです。一緒に様々な活動をしているなかで、それを感じました。僕ももっと何事にも積極的になりたいです。

3つ目は、ケアンズ市内での買い物のときに思ったのですが、どの店に行っても必ずといっていいほど日本人の店員がいることです。それを見て僕は、オーストラリアで働いている日本人はこんなにもたくさんいるんだと驚き、感動しました。

4つ目は、日本の蟻とオーストラリアの蟻の違いです。日本の蟻は黒く、人に攻撃してきませんが、オーストラリアの蟻は白く、人にしつこく攻撃してきます。その他にも、オーストラリアの蟻は巣をあちらこちらにつくっています。

オーストラリアに行って、日本の良いところ、オーストラリアの良いところ、生物の特徴の違いなど、いろいろなことに気づくことが出来ました。また、日本はご飯がおいしいということ



に改めて気がつきました。オーストラリアのパンやスパゲッティはおいしかったのですが、やはり、ご飯の好きな僕は日本人で良かったと思いました。

オーストラリアでの貴重な 8 日間

NO. 17 仙北中学校 大山 栞

1月4日～12日までの9日間、海外派遣事業としてオーストラリアに行ってきました。あっという間の9日間でした。たくさんの不安がありましたが、その不安を打ち消してあり余るほどの良い体験ができました。

～マンガリーフォールズにて～

オーストラリアに着いて初めて行ったのがマンガリーフォールズでした。すぐどきどきしていましたが、意外にも日本人がスタッフとして働いていてビックリしました。このように、外国に来て仕事をしている人もいるのだと思いました。ここでの一番の思い出は、現地の学生との交流です。会って間もないのにとても仲良くなることができました。「What subject do you like the best ?」と聞くと、ほとんどの人が「Math」と答えてくれました。「勉強好き！」と言ってくれた人もたくさんいました。なによりも英語で話してコミュニケーションをとることができたのがうれしかったです！！

～ファームステイ先にて～

私が今回一番緊張していたのがファームステイでした。でも、一番心に残って楽しかったのも、ファームステイでした。完全な英語ではなくても、単語を並べるだけで十分に会話が成り立ちました。

ファームということで、何回も農場に行きました。そこではバッファロー（日本でいう水牛）を飼っていて、食事のときもバッファローのミルク、アイス、チーズなどが出てきました。実際にそのミルクは、色々な所に出荷しているそうです。バッファローのミルクは、普通のミルクよりも濃い味がしました。餌は干草とトウモロコシの粉と、シンプルでした。手伝いもしましたが、結構体力を使いました。まだ小さいバッファローには、ミルクをあげました。日本の牛とはまた違って可愛かったです。



ホストファミリーとの会話は単語だらけのカタコトの英語だったけれども、私の言っていることを、みんなが一生懸命に聞いてくれて会話がなりたちました。時にはジェスチャーなどもつかいました。折り紙や紙ふうせんでは、言葉でうまく言えなくてもお互いに楽しむことができました。自分達の名前を漢字で書いて、名前の由来・意味を説明すると、分かってくれました。ファミリーの名前を、漢字を使って当て字にして教えると、これもとても喜んでくれました。一番不安だったファームステイが、一番楽しい思い出となりました。

大自然の中で異国の家族と過ごせたのはとても良い経験でした。普段できない経験をさせてもらったり、普段行けない場所に連れて行ってもらったりなど、ホストファミリーには本当にお世話になりました。「THANK YOU VERY MUCH ! ! !」



～お互いに気持ちの良い生活をするためにはどうすべきか??～

今回オーストラリアという外国に行って、このテーマに関することをたくさん感じてきました。

★乗り物や公共施設は、禁煙。これは日本もそうですが外国も同じだということに驚きました。大切なエチケットだと思うので、お互いに気持ちの良い生活をするためには、いいことだと思います。

★「笑顔」を、忘れないこと。英語なのでときどき相手が何を言っているかわからない時もありました。そのような時も笑顔で聞き返せばみんな親切に説明してくれました。それから、いつも笑顔でいると、相手のほうから話しかけてくれることが多かったと思います。相手も自分も良い気持ちなることができました。

★世界の共通言語である英語を、もっともっと勉強しなければいけないということです。少しばかりの英語ではちょっと難しいと感じました。もちろんジェスチャーなどでもいいのですが、やっぱりそれだけでは通じないこともあるので、世界に通用する英語力を身につけなくてはいけないと思いました。

今回の海外派遣事業を通じてたくさんのことを学びました。

これからもこのような企画に積極的に参加していきたいです。

★オーストラリアで学んだこと

No.1 8 仙北中学校 原 絵里香

★はじめに

1月4日から1月12日までの9日間オーストラリアに行ってきました。外国に行くのはもちろん、何もかもが初めてで不安がとても大きかったです。でも、オーストラリアに行ってみると不安もなくなり、楽しい毎日を過ごすことができました。そして、生の英語にもたくさん触れることができ、とてもいい経験になりました。そんな9日間の出来事を紹介したいと思います。

★テーマ設定の理由

わたしの自主研究テーマは「コミュニケーションを大切にしたい、安心できる暮らしのためにはどうするべきか」です。このテーマにした理由は、今の人たちは家族と一緒に朝食を食べなかったり、会話がへってきていると思うからです。この問題をなくすためにもオーストラリアの人の過ごし方を、自分の目で見てみたいと思いました。

★調べた内容

ホームステイについて

1月6日～1月8日までの3日間ホームステイを体験しました。

○1日目○

ロッジにわたしたちを迎えに来てくれたのが、お父さんとお母さんでした。初対面にもかかわらず、たくさん話かけてきてくれました。でも、何を言っているのかよく理解できずとまどってしまいました。ホームステイ先まで行く車の中で、緊張しながらも少しずつこれまで覚えた英語を使うことができ、会話ができたことが、とてもうれしかったです。その会話の内容が、オーストラリアの「自然」についてでした。わたしがオーストラリアに来ていちばん最初に思ったのが、「自然がきれいだなあ」ということでした。お父さんもお母さんも、「とってもきれい」と言っていました。そんな話しているうちにホームステイ先の家につきました。

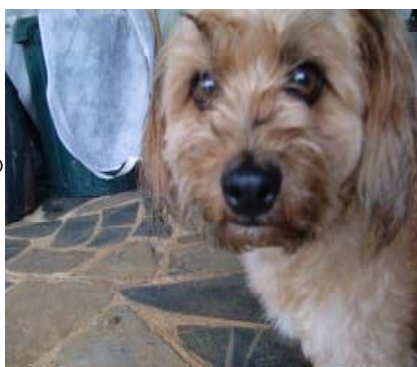
そしていよいよホームステイがはじまりました。英語を聞き取るのが精一杯で、「会話」はなかなか思っていたようにはできませんでした。

午後からお父さんが、3つの滝を見に連れて行ってくださいました。どの滝の水も透き通っていて、とてもきれいでした。(青いとんぼもいました)

●昼ご飯、晩ご飯の準備を家族みんなで行っていたのがすごいと思いました。(日本ではなかなかありません)

♪1日目は、家族の言っている英語を聞き取るので、精一杯でした。(答え方がほとんどイエス、ノーでした) これまで習った(覚えた)英語をたくさん使おうと思っていたけれど、やっぱり簡単には話すことができませんでした。まるで、外国のテレビの中にいるようなかんじでした。1日中英語に触れることができるのはめったにないことなので、うれしかったです。♪

ホームステイ先の
Dog



家の中



ホームステイ先の
お母さん



水が澄んでいてきれいだった。



1日目
ホームステイ先
のお父さんに見
連れていってら
った滝。



ホームステイ先
のお父さん
(お兄さん、弟も
います)

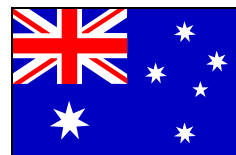


○2日目○

2日目は、初めてダックとチキンにえさをやりました。ダックもチキンも20羽以上いました。えさをあげると、ものすごい勢いで集まってきたのでびっくりしました。わたしは動物を飼っていないので、動物ともたくさんふれあうことができ嬉しく思いました。お兄さんが、お父さんの手伝いで木を切っていました。何も文句を言わずやっていたのがすごいなあと思いました。1日目よりも積極的に家族と話すことができ、とってもうれしかったです。

●2日目も朝ご飯、昼ご飯、晩ご飯の準備を家族みんなでやりました。わたしも進んで手伝うことができ、家族の一員になれたような気がしました。

♪2日目は、自分から積極的に話しかけられたと思います。



○3日目○

3日目は、「買い物」「魚釣り」に連れていってもらいました。「買い物」は、お店が大きくてびっくりしました。(レシートも大きかったです) オーストラリアに来て初めての買い物だったので、すごくワクワクしていました。(緊張もしました)「魚釣り」も初めてでした。そのため、やり方がよくわかりませんでした。でも、弟がていねいに教えてくれました。何回もえさをとられてしまい、とても難しかったです。約2時間釣りをして、みんなあわせて釣れたのが2ひきでした。魚は釣れなかったけれど、とても楽しかったです。弟ともたくさん話すことができたので、よかったです。

●3日目も朝ご飯、昼ご飯、晩ご飯の準備を家族みんなで行いました。そこが、日本とちがうところだと思いました。

♪3日目は最終日だったので、朝から寂しい気分になっていました。でも、家族と楽しい思い出をたくさん作ることができたのが、とてもうれしかったです。

ホームステイでの○○!

●食べ物・・・

朝→シリアル、ホットケーキ など

晩→パスタ など



●ホームステイ先で家族全員が必ず協力してやっていたこと・・・

食べた後の片付け。皿洗い、皿ふき

ホームステイを終えて

初日は、とても緊張してほとんど話すことができなかったけれど、2日目からは、たくさん家族のみんなと話すことができ、とてもうれしかったです。カタコトの英語でも、自分なりに会話をするので、よかったです。(正直、自分の英語が伝わるかどうか、とても心配でした。)「学校で学んだことを生かしてがんばろう!」と思っていたけれど、実際話してみるとパニックになってしまいました。この3日間のホームステイを通して思ったことは、「英語を完璧に話せなくても、気持ちや感情がこもっていれば伝わるんだ」ということと、やっぱり「英語はおもしろい」ということでした。ホームステイで学んだこと、オーストラリアで学んだことを、これからの学校生活、授業そして将来のために生かしていきたいと思います。そして何より、ホストファミリーには本当に感謝したいです。

★テーマについて

「コミュニケーションを大切にしたい、安心できる暮らしのためにはどうすべきか」

わたしは、家族がたくさん会話をし、手伝いなどをして協力するべきだと思いました。ホームステイをしているときに、朝、昼、晩いつでも家族みんなでご飯の準備をしていました。片付けもみんなで行ってやっていました。(正直とてもびっくりしました。)日本だと、どの家庭もお母さんがすべてやると思います。ホストファミリーのようにみんなで行うことによって、会話もすることができ、コミュニケーションもとれてとてもいいと思いました。わたしは普段あまり手伝いをしないので、これを機会に手伝いをするように心がけ、家族とコミュニケーションをたくさん取りたいです。

★現地学生との交流

1月9日に現地学生との交流の時間がありました。チームをつくって「障害物競争」などをやりました。障害物競争は、高いかべを乗り越えたり、あみをのぼったり、最後はターザンのようなものを作り、池に必ずおちる というコースでした。池は、深さが約1メートル80センチあったので最初は少しこわかったけれど、やってみるととてもおもしろくて何回もやってしまいました。

もう1つ、チームでやったことは、「チームラフトビルディング」です。いかだをチームで一から作って、いかだの上に4人、ほかの人は泳いでいかだを押し、ゴールしたらまた、いかだを元の状態に戻す、という内容でした。いかだの上に乗った人が落ちてしまったとき、みんなで助けました。とても楽しかったです。夜には、現地学生とわたしたち、現地スタッフの方と一緒にダンスを踊りました。たくさん踊ってたくさん交流することができました。とても楽しかったです。言葉のかべはある程度あったけれど、それを乗り越えて現地学生と交流することができたと思いました。できるならば、またいつか会いたいなあと思いました。

★土ボタル

1月5日の夜に「土ボタル」を見に行きました。みんながつけていた明かりを消すと・・・きれいに光っている土ボタルがたくさんいました。あのきれいな光景は、今でもしっかり覚えています。

★海外研修を終えて★

海外研修では、大好きな英語だけではなく、さまざまなことを学んでくることができました。外国に行くのはもちろん初めてで、とても不安が大きかったです。でも、オーストラリアに行ってみると、不安も消え、とても充実した毎日を過ごすことができました。ホームステイで英語が通じた時の喜び、現地学生との交流やカモノハシ探索、グリーン島観光、キュランダ鉄道や水陸両用車に乗ってオーストラリアの自然を自分の目で見たことなどが心に残っています。（日本にはないような植物がいっぱい、大きいカエルや水色のとんぼもたくさんいたので驚きました。）

この9日間の海外研修に参加できて本当によかったです。自分の英語力を試すことができたし、そのほかにもさまざまなことを学んでくることができました。オーストラリアに行って学んだことを、これからの学校生活、授業そして将来のために生かしていきたいと思います。

I had a very good time!

My Memory My Memory

No.19 仙北中学校 山田 姫

その壱 オーストラリアへの期待

小学校からの念願の夢、オーストラリアへのホームステイが叶う!!! それを知ったときの喜びは、今でも忘れられません。泣くほど嬉しかったです。(実際に泣きました…)

ノートに使いそうな英文をまとめたり、必要な荷物を揃えたりと着実に準備を進めていき、そして、家族や学校の友達、先生方に見送られ、たくさんの**期待**に胸を躍らせ、いよいよオーストラリアへと旅立つ。「大丈夫。きっといい体験が出来る。 きっと・・・」多少の不安を抱えて。

その弐 自主研究テーマ

私は、オーストラリアの学生と家族に興味を持ちました。

オーストラリアの家族の過ごし方や食生活は私達と違うのか？

オーストラリアの学生の勉強に対する意欲、学校生活は私達と比べてどうなのか？

この疑問から、2つのテーマをたてました。

- ・家族の一員として私たちはどうあるべきか？
- ・よりよい学校生活をおくるにはどうするべきか？

これを追求するために、以下のことを中心に調べました。

- ・学生生活
- ・家族の過ごし方



その参 テーマについて調べて分かったこと

・家族について

ペットのナゲットです。



私がステイしたお宅の Voss (ボス) さん夫妻です。

私達を迎えにマンガリーフォールズに来てくれたお父さんの第一声。 何だか分かりますか??

『We are family! Call me PAPA!! 』

(私達は家族だよ！ 私のことはパパと呼んで!!)

家へと向かう車の中でも、『Not Japanese. Speak English!!!』（日本語はダメ。英語で話そう!!!）など、優しく私達に声をかけてくれました。
家に向かう途中、近くの滝に連れて行ってくれました。



Zillie Falls



Millaa Millaa Falls



Ellinjaa Falls

そして、ついに家に到着!!!

今度はお母さんが私達を歓迎してくれました。

2日目には、少し遠いところにも連れて行ってくれました。



Curtain Fig Tree



Lake Eacham



凄く豪華な家でなんと、室内プール付き!!!



プールの住人デイビットがいるよ～～



ママの料理はとてもおいしく、自家製のチーズやマンゴー、バナナもいただきました。食事を食べ終わった後の後片付けや掃除を手伝おうとしましたが、どの仕事もパパやママは『パパの仕事だから、座っていなさい。』『気にしないでいいのよ休んでなさい。』と言って何もしようがなかった・・・（家族なんだから手伝うのになあ・・・）



皆でアフタヌーンティーをしながら雑談したり、ママと習字をやったりもしました。

本当に楽しかった。

そんな、優しく私達を迎えてくれたパパとママに皆で作った日本食(そうめん)とメッセージを書いた色紙を贈りました(^O^)



そうめんは、ママもパパもとてもおいしそうに食べてくれました。

特に、ママが気に入ってくれて嬉しかったです。最初、パパはフォークでそうめんを巻いて食べていたけど、私達のマネをして途中から日本のように「ズズッ」と音を出して食べてくれました。

最終日。

今までお世話になった感謝の気持ちを込めて皆で書きました。

ママもパパも凄く喜んでくれて、すぐに飾ってくれました。



一番嬉しかったこと：片言の英語でも思いは通じる!!!

あっという間に終わってしまったファームステイでした。

・学生について

オーストラリアの学生の第一印象は、大人っぽい、優しい、そして凄く積極的!!!

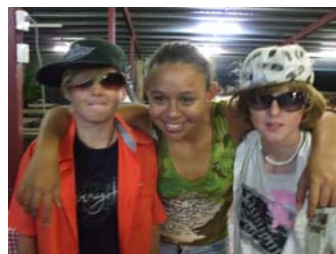
私達と同年なのに、

身長が高く、綺麗!!

どう見ても17~18歳に見える!?

心が広く優しい。

積極的にどんどん話しかけて来てくれる。



私達がステイした家では、お母さんが友達とその子供を家によんでくれました。その子の名前は、レイチャー(Lace1)。ぱっと見は18歳くらい。(実年齢は後ほど)身長が高くとても綺麗な方で、唇、鼻、耳、へそにピアスをしていました。髪にもメッシュを入れており、最初は「少しきつそうな人だなあ～」と感じました。ですが、色々な場所に連れていってくれ、その際の説明が凄く分かりやすいものでした。私なら自分の地域のことも、レイチャーのようにしっかりと説明はできません。

そんな cool&beautiful(笑)なレイチャーに恐る恐る

『May I take your picture?』(あなたの写真を撮ってもよいですか。)と尋ねたところ以外にも、あっさり

『Oh, sure.』(ああ、もちろん。)と快く引き受けてくれました。

他にも年齢と誕生日を聞きました。どの質問にも明るく、優しく答えてくれました。

でも、年齢を聞いたとき私は驚きました。

何と 14歳!!! 同年だったんだ・・・

いろんな意味でショック。これぞカルチャーショック!



←左の写真がレイチャー。

どうですか? とても14歳には見えないでしょう。

後で知ったのですが、レイチャーはスイスとオーストラリアのハーフとか...

～まとめ1～

日本に帰りたくない! オーストラリアにずっといたい!!! 何度思ったか・・・

今回の海外派遣で人に対する思いやりの心を肌で感じました。普段の生活では絶対に得られないものに触れることが出来たと思います。家族をはじめ、私を支え送り出してくださいました皆さんには心から感謝します。ありがとう!!!

このオーストラリアの思い出や一緒に過ごし仲良くなれた友達のことは一生忘れられない大切な思い出となりました。 また、いつか行けることを強く願います。

～まとめ2～

ここで今回のテーマについてもう一度振り返りたいと思います。

ひとつ目のテーマについて、手伝いなどはやることが出来なく残念でした。でも、パパやママは私達を暖かく迎えてくれたし、私達もそれに感謝して生活することが出来ました。感謝の気持ちを持つことは凄く大切なことだと改めて実感しました。

ふたつ目のテーマについて、私達はオーストラリアの学生に比べて積極性がかなり足りないと思いました。オーストラリアの学生は勉強に対する意欲もあることでしょう。これからの学校生活では、今回の体験や見聞を積極的に広め、教えていき、更に自分自身の飛躍につながるよう役立てていきたいと思います。